

特別史跡熊本城跡
平成28年熊本地震被害調査報告書

2 0 1 8

熊本城総合事務所
熊本城調査研究センター

特別史跡熊本城跡
平成28年熊本地震被害調査報告書

2018

熊本城総合事務所
熊本城調査研究センター



本震後の天守閣全景 北東から



頼当御門周辺の測量作業 南から



飯田丸五階櫓 南から



東十八間櫓 (左) と北十八間櫓 北東から

例 言

1. 本書は、平成28年（2016）4月14日と4月16日に発生した「平成28年熊本地震」で被災した、特別史跡熊本城跡の被害状況を記録した報告書である。
2. 本書における調査範囲は、特別史跡熊本城跡の51.2haを含む旧城域約98haの範囲である。
3. 本書は、平成28年熊本地震で被害を受けた熊本城跡の被害状況に関する図面、写真、動画の整理・編集を行い、その成果を報告書として刊行し、広く周知した上で復旧に生かすことを目的とする。
4. 本書の被害調査報告については、文化庁提出の平成28年（2016）5月27日付「重要文化財（熊本城宇土櫓他12棟）のき損届」と、平成28年（2016）5月30日付「特別史跡熊本城跡のき損届」を基本にしている。
5. 本書の作成については、『特別史跡熊本城跡被害調査報告作成業務委託』業務に基づき、株式会社イビソク九州支店が行った。
6. 本書の執筆・編集については、熊本城総合事務所、熊本城調査研究センターが行った。

目 次

第1章 熊本城の概要	
第1節 熊本城の沿革	1
第2節 熊本城の構成要素	3
第2章 地震被害について	
第1節 平成28年熊本地震について	8
第2節 地震発生以降の経過	9
第3節 被害の状況等	11
第3章 熊本城の建物被害	
第1節 国指定重要文化財建造物	12
第2節 県指定重要文化財	65
第3節 再建・復元建造物	66
第4章 熊本城の石垣被害	
第1節 本丸地区	71
第2節 二の丸地区	76
第3節 古城地区	78
第4節 三の丸地区	78
第5節 千葉城地区	78
第5章 その他の被害	
第1節 地盤	162
第2節 便益施設・管理施設等の被害状況	163
第6章 まとめ	
第1節 被害の概要	167
第2節 被害調査	167
第3節 被害状況の報道と情報発信	167
第4節 復旧の方針	168

付属 DVD 目次

1. 被害状況動画
 - ①大天守・小天守
 - ②宇土櫓
 - ③飯田丸五階櫓、長堀、頬当御門周辺
 - ④東十八間櫓、北十八間櫓、西大手櫓門、百間石垣
 - ⑤宮内橋周辺、戌亥櫓、備前堀、数寄屋丸
2. 復旧作業画像
 - ①加藤神社
 - ②山崎口周辺
 - ③頬当御門周辺（解説文有り）
 - ④飯田丸五階櫓
 - ⑤頬当御門周辺（解説文なし）

第1章 熊本城の概要

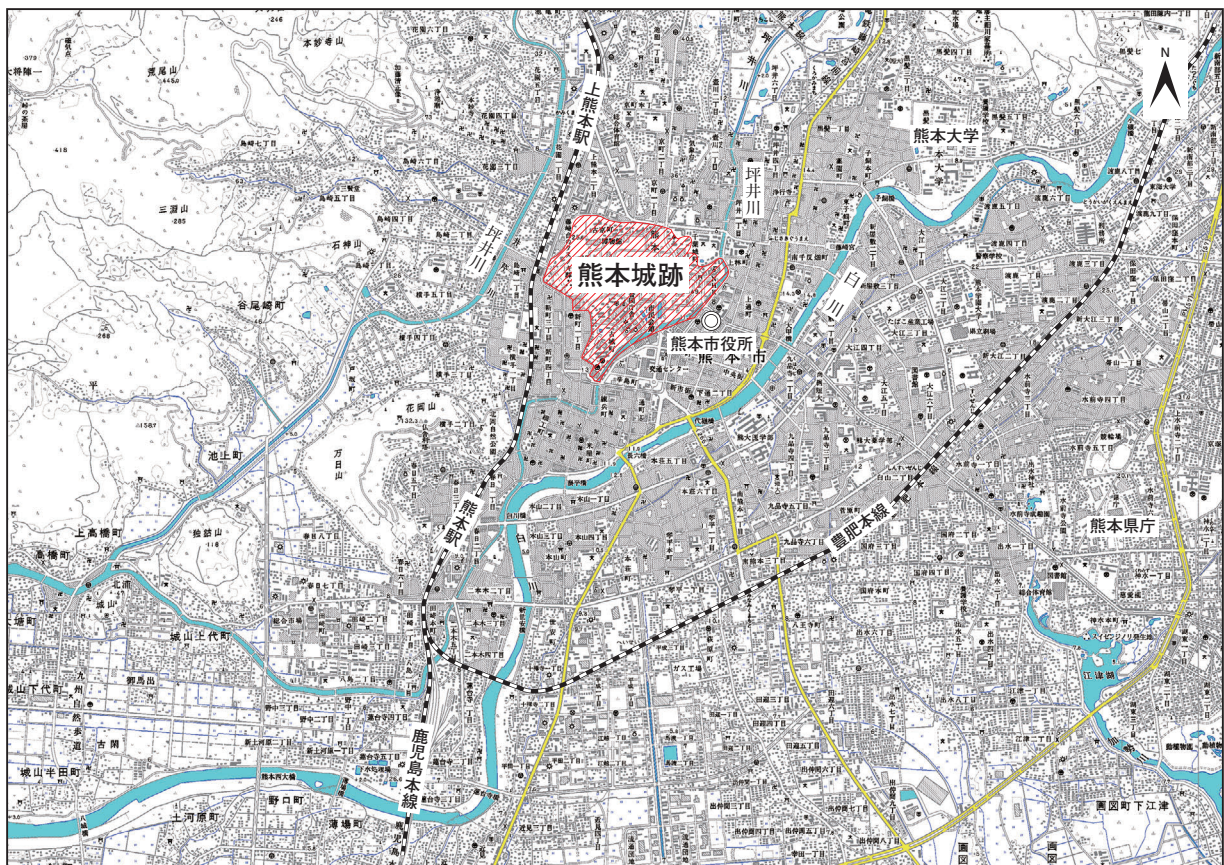
第1節 熊本城の沿革

熊本城は、肥後半国領主として天正16年（1588）に入国した加藤清正によって築かれた城郭である。

熊本城築城以前は、熊本平野に望む小高い丘状の地形で、茶臼山と呼ばれていた。この茶臼山には、古代あるいは中世の寺院（茶臼山廃寺）が存在していたと言われている。現在の本丸から千葉城付近にかけて、中世の板碑や多数の五輪塔が見られる。造られた年代がわかるものとして、天守前の「阿弥陀三尊種子板碑」（天正5年〔1577〕銘）、本丸御殿東側の「如意輪観音図像線刻板碑」（大永4年〔1524〕銘）などがあり、石垣の石材として使われたものもある。

城としては、丘陵東端の現在千葉城町と呼ばれる高まりに築かれた隈本城に、15世紀後半に菊池一族の出田秀信が入城したとされる。その後、大永～享禄年間（1521～32）に、出田氏に代わって鹿子木親員（寂心）が隈本城に入り、新たに茶臼山の南西端に城を移した。これが現在古城（県立第一高校一帯）と呼ばれている場所である。鹿子木氏は、天文19年（1550）に豊後の大友義鎮により同城を追われ、代わって城親冬が入城した。城氏は、天正15年（1587）に豊臣秀吉に降伏して明け渡すまで、3代にわたってここを居城としていた。天正16年（1588）、秀吉から肥後を与えられた佐々成政が入城するが、佐々氏は肥後国衆一揆の責任を問われて切腹となり、同年新たに肥後半国19万5千石の大名となった加藤清正が入城した。加藤清正は、入城当初は隈本城を石垣造りの城郭に改築したが、慶長3年（1598）の秀吉の死を契機に城の背後の茶臼山一帯を取り込んだ新たな城郭の建設を始めた。慶長12年（1607）、新城は完成し、これに合わせて「隈本」を「熊本」へと改めたとされている。この新城が現在見られる熊本城である。

その後、寛永9年（1632）加藤氏の改易に伴って細川氏が豊前小倉より入国した。細川氏の治世



第1図 熊本城位置図

は明治維新まで続き、細川氏によって熊本城は維持管理された。

明治4年(1871)7月に廃藩置県が行われ、さらに兵制も整備された。明治4年(1871)8月には鎮西鎮台の設置が決定され、本営は熊本県庁(花畑邸)に置かれたが、明治6年(1873)に鎮西鎮台は熊本鎮台と改称し、鎮台本営は熊本城に置かれることになった。明治7年(1874)6月に熊本城は陸軍用地に編入され、熊本城本丸に鎮台本営は移転し、翌明治8年(1875)4月には歩兵第十三連隊が編成された。その後、城内には明治21年(1888)の第六師団司令部をはじめ、陸軍の各種施設が設けられ終戦まで陸軍の管轄下に置かれた。なお、明治10年(1877)の西南戦争の直前、大小天守や本丸御殿などの本丸中心部の大半の建物が焼失した。

明治35年(1902)、明治天皇の熊本行幸の際、熊本城は行在所となったため、従来の南坂の急傾斜を改めて、行幸坂を新設した。

熊本城は、西南戦争時の災禍や陸軍によって様々な改変を受けてきたが、大正末頃から城跡の保存・顕彰が主張されるようになり、昭和8年(1933)年に宇土櫓他12棟の建造物が国宝に指定され、昭和30年(1955)には「熊本城跡」として特別史跡に指定された。

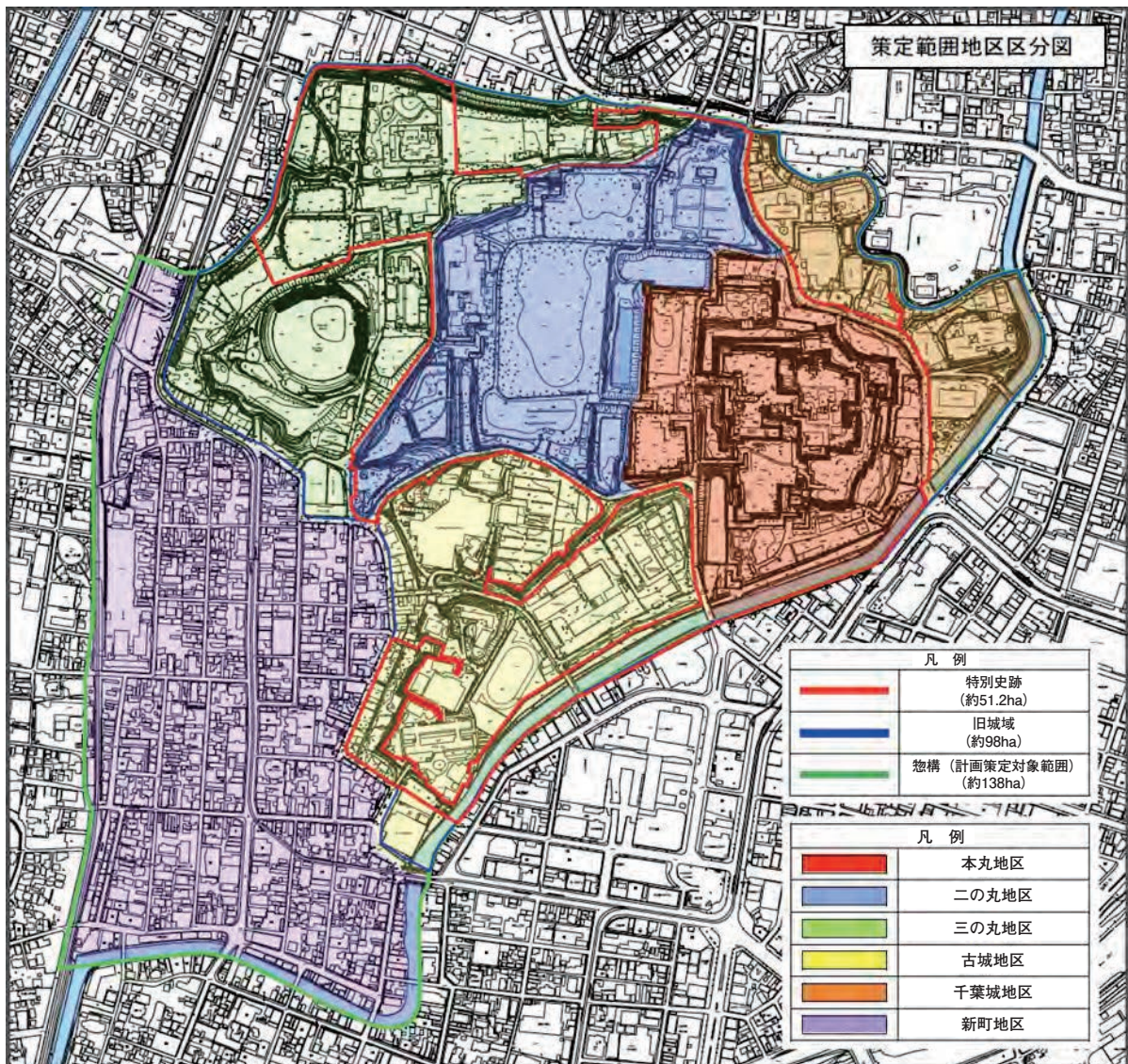
昭和35年(1960)の大小天守の外観復元以降、建造物や石垣の保存修理・復元整備が行われるとともに、昭和23年(1948)には熊本城の公園化計画が立てられた。昭和30年代から50年代にかけて、国・県・市の公共施設や教育施設をはじめ、民間の施設が多く建設される等周辺の様子は大きく変化した。

平成9年(1997)には「熊本城復元整備計画」を策定し、西出丸一帯・飯田丸一帯を整備した。築城400年にあたる平成19年(2007)には、本丸御殿の中で最大の建物であった大広間棟・大台所棟と合わせて数寄屋の復元整備を行い、平成26年(2014)には馬具櫓の復元整備を行った。

第2節 熊本城の構成要素

現在の特別史跡熊本城跡の概要を示すに当り、「特別史跡熊本城跡保存活用計画」で分けられた地区区分との整合をはかるため、以下の区分図に従って地区を表現している。

区分図では、旧城域内を5つに分けている。西出丸から東側の天守閣や本丸御殿のある熊本城の中枢部分を本丸地区としている。本丸地区の北西側で、二の丸公園を中心に野鳥園や監物台樹木園を含めた部分を二の丸地区としている。二の丸地区のさらに北西側を三の丸地区としている。二の丸地区の南側で、二の丸地区から一段下がった独立行政法人国立病院機構熊本医療センターから熊本県立第一高等学校にかけて古城地区、本丸の北東側を千葉城地区としている。



第2図 地区区分図

(1) 石垣

熊本城の石垣は、延長8.7km、面積約79,000㎡に及び、明治初期に解体撤去、改変された箇所はあるものの、そのほとんどは良好に保存され現在に至っていた。

加藤清正が肥後に入って最初に築いた石垣は、熊本城の前身である隈本城のもので、古城地区の現在の熊本県立第一高等学校一带に良好に残存している。加藤清正は、新城を築くにあたって、茶臼山の東から西へ緩やかに下がる地形を活かし、本丸を東側の最高所としたため、石垣は城内でも東側に集中して築かれた。よって、本丸地区が箇所数・面積ともに他の地区を圧倒している。

本丸の東側は急傾斜で、天守閣や本丸御殿のある最上段から、2ないし3段の高石垣を築いている。南側は急傾斜ではないが、高低差があり、地形を活かして、3ないし5段の石垣を重ねて防衛線としていた。西側・北側は高低差があまり無いため、L字型の堀を2重に設けて防衛線とし、堀の本丸側に石垣を築いていた。

二の丸地区は、崖線など自然地形を改変して防衛線とし、石垣は門などの要所に築かれていた。三の丸地区は自然地形を活かした防衛線で、北西端の森本櫓一带に石垣が築かれていた。

以下に地区ごとの箇所数（面）と面積を示す。

表1 石垣の概要（熊本城域の史跡指定地外を含む）

地区名	箇所数（面）	面積（㎡）
本丸地区	624	55694.95
二の丸地区	99	7769.74
古城地区	97	8560.72
三の丸地区	143	6776.76
千葉城地区	10	230.95
合計	973	79033.12

(2) 重要文化財建造物

①国指定重要文化財

重要文化財建造物は、往時の姿を今もとどめる特別史跡熊本城跡としての最も重要な文化財のひとつであり、震災前は、必要に応じ保存修理工事等を行っていた。

熊本城には、櫓11棟、櫓門1棟及び長堀の計13棟の国重要文化財に指定されている建造物が現存している。所在は、櫓1棟が二の丸地区にある以外は、本丸地区にある。明治10年（1877）の西南戦争の際の火災等により、大小天守や本丸御殿などの中心建物は現存していないが、第4図に示したように本丸地区を縁取るように重要文化財建造物が現存している。

現存する櫓の中で最大規模の宇土櫓は、天守閣の西側に位置し、深い堀に築かれた高石垣の上に建つ姿は熊本城の代表的な景観の一つである。南側に連なる続櫓とともに震災前は内部を一般に公開していた。

本丸の東側は、元々の地形の急傾斜を利用した防衛線で、数段重なる曲輪に合わせて高石垣が築かれた。本丸の北東から南東に残存する櫓はこの高石垣上に建てられている。田子櫓・七間櫓・十四間櫓・四間櫓・源之進櫓は、本丸の南東側に連続して建てられた単層櫓群で、内部の公開は常時は行わず、期間を限った公開をしていた。東十八間櫓・北十八間櫓・五間櫓は、本丸の東端に建てられた単層櫓群で、元々は不開門に連なっていた。この櫓群も、内部の公開は常時は行わず、期間を限った公開をしていた。平櫓は、天守の北東に位置した単層櫓で、内部は非公開であった。櫓門で唯一現存する不開門は、城内の鬼門に当る部分に設けられた門で、通常は閉鎖されていたと考

えられている。有料区域への入場口の一つとして使われ、来園者の通行を可能にしていた。

本丸の南側の坪井川沿いに建てられた長塀は、昭和8年（1933）より建造物指定（当時は国宝として指定）を受けていたが、平成3年（1991）の台風19号により倒壊、平成4年（1992）に復元工事を実施したが、平成27年（2015）の台風15号で一部破損し、震災で大半が倒壊した。

本丸地区以外の重要文化財建造物としては、監物櫓がある。城内の北端の新堀に望んで建つ単層櫓で、本来の名称は長岡図書預櫓（新堀櫓）である。

熊本城の各種重要文化財建造物は、昭和8年（1933）に国宝保存法で当時の国宝指定を受け、昭和25年（1950）8月28日文化財保護法（法律214号）により、13棟全てが重要文化財となった。また、昭和36年（1961）3月23日には、監物櫓の所有が熊本県から国に移管された。

また、昭和34年（1959）7月25日には、宇土櫓・不開門・平櫓・監物櫓・長塀の5棟について、管理団体に熊本市が指定され、その後昭和37年（1962）3月31日にはその他8棟が追加され、現在に至っている。

表2 重要文化財建造物の概要

名 称	創建年代・構造形式	規 模 (㎡)	備 考
宇土櫓	慶長期・木造五階、本瓦葺	914.65	本丸地区
田子櫓	〃・木造単層、本瓦葺	49.96	本丸地区
七間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	66.99	本丸地区
十四間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	162.11	本丸地区
四間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	46.49	本丸地区
源之進櫓	〃・木造単層、本瓦葺	108.40	本丸地区
東十八間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	234.70	本丸地区
北十八間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	144.37	本丸地区
五間櫓	〃・木造単層、本瓦葺	35.37	本丸地区
不開門	〃・木造櫓門、本瓦葺	59.70	本丸地区
平 櫓	〃・木造単層、本瓦葺	111.17	本丸地区
長 塀	〃・木造土塀、棧瓦葺	242.44	本丸地区
監物櫓	〃・木造単層、本瓦葺	140.33	二の丸地区

他に、天守閣内には国指定重要文化財「細川家舟屋形（波奈之丸）」が保管展示してあった。

②県指定重要文化財

県指定重要文化財「旧細川刑部邸」が、平成5年（1993）に三の丸地区に移築復原されている。細川刑部家は初代藩主忠利の弟である刑部少輔興孝が興した家で、旧細川刑部邸は江戸時代に細川刑部家の下屋敷として中央区子飼町にあった。

(3) 再建・復元建造物

建造物の復元整備は、昭和35年（1960）の天守閣の外観復元から始まった。昭和30年代、40年代の復元整備は外観のみの復元となっており、鉄筋コンクリート造やコンクリートブロック造で建てられていたが、その後、昭和56年（1981）の西大手門からは木造による史料に基づく復元が行われるようになった。

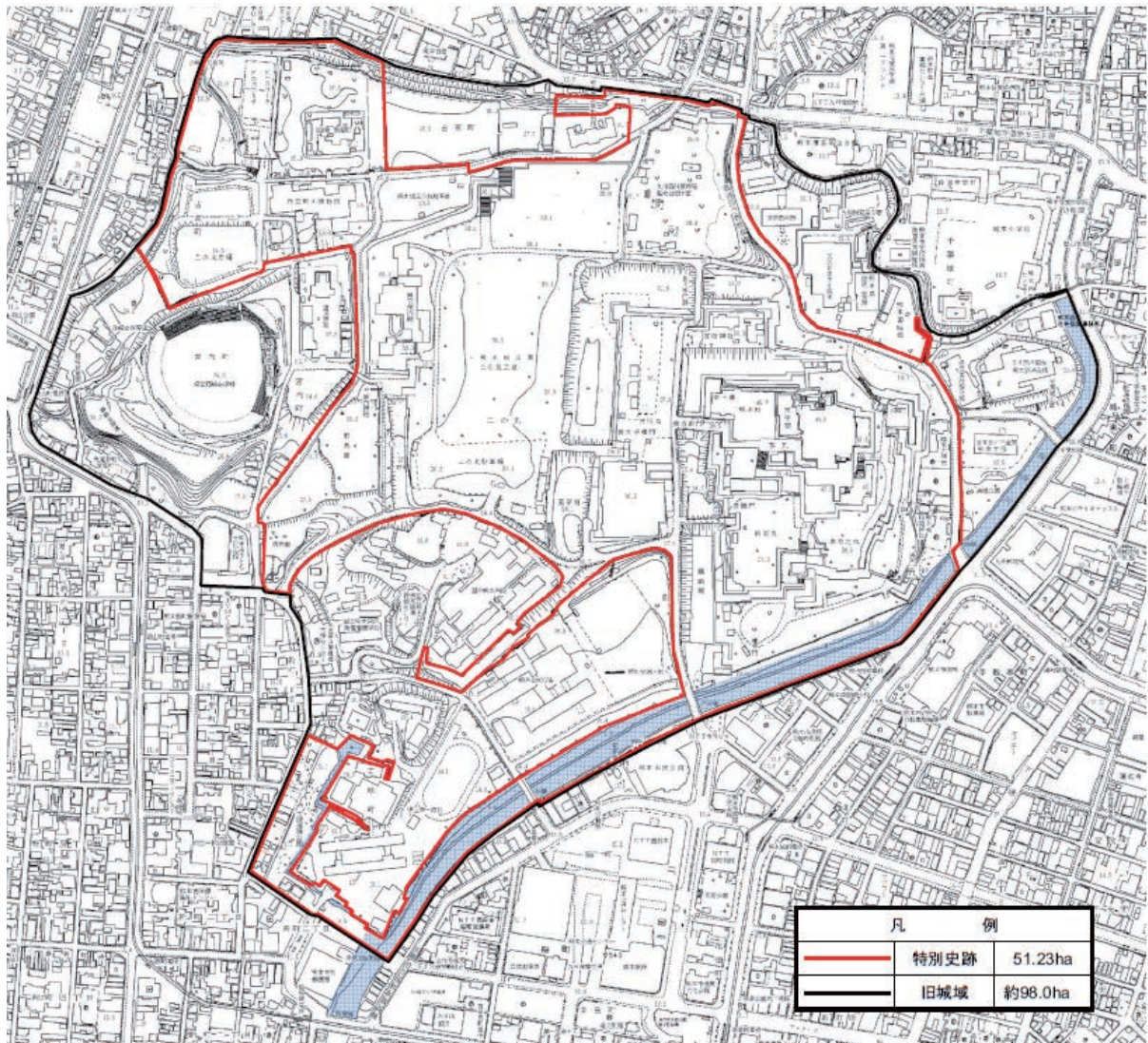
表3 復元建造物の概要

名称	復元年	復元構造
天守閣	昭和35年度再建	鉄骨鉄筋コンクリート造
本丸御殿大広間	平成19年度復元	木造
長局櫓	平成19年度復元	木造
数寄屋丸二階御広間	平成元年度復元	木造
宇土櫓塀	平成元年度復元	木造
飯田丸五階櫓	平成16年度復元	木造
戊亥櫓	平成15年度復元	木造
西出丸塀	平成15年度復元	木造
西大手門	昭和56年度復元 平成15年度再復元	木造
南大手門	平成14年度復元	木造
元太鼓櫓	平成15年度復元	木造
奉行丸北側塀	平成15年度復元	木造
奉行丸西側塀	平成15年度復元	木造
未申櫓	平成15年度復元	木造
奉行丸南側塀	平成15年度復元	木造
奉行丸東側塀	平成15年度復元	木造
馬具櫓	平成26年度復元	木造
馬具櫓続塀	平成26年度復元	木造
櫓方門	昭和32年移築	木造
平御櫓続塀	昭和35年度再建	コンクリートブロック造（一部木造）

(4) 史跡指定の変遷

史跡指定の変遷は以下の通りである。

- ・昭和8年（1933）2月28日史跡指定
- ・昭和15年（1940）8月14日追加指定（二の丸地区の一部を追加指定）
- ・昭和27年（1952）2月4日名称変更（史跡熊本城から史跡熊本城跡に変更）
- ・昭和29年（1954）7月30日追加指定（本丸・二の丸の旧軍用地を追加指定）
- ・昭和30年（1955）12月29日追加指定及び特別史跡指定
（竹の丸を追加指定するとともに史跡から特別史跡に昇格）
- ・昭和37年（1962）4月16日一部指定解除
（城縁辺部の地形が大きく改変された箇所を指定解除）
- ・昭和58年（1983）3月31日追加指定ならびに一部指定解除
（城縁辺部の石垣を追加指定し、県道拡幅箇所を一部指定解除）
- ・平成17年（2005）3月2日追加指定（三の丸地区を追加指定）



第3図 現在の指定範囲

(5) 管理団体指定

昭和26年（1951）に、史跡の管理団体として熊本市が指定された。昭和40年（1965）以降に追加指定（一部解除）された区域については、官報告示はされていないが、平成28年（2016）現在で指定されている全域を熊本市が管理している。ただし、独立行政法人国立病院機構熊本医療センターや国・県管理地についてはその限りではない。

昭和37年（1962）に都市計画決定された熊本城公園についても熊本市が管理運営を行っている。

(6) 都市公園としての管理

昭和37年（1962）に都市計画決定された熊本城公園についても熊本市が管理運営を行っている。

第2章 地震被害について

第1節 平成28年熊本地震について

[地震の震源および規模等]

	前震	本震
震発生時刻	平成28年(2016) 4月14日 21時26分	平成28年(2016) 4月16日 1時25分
震央地名	熊本県熊本地方	熊本県熊本地方
発生場所(緯度経度)	北緯32度44.5分、東経130度48.5分	北緯32度45.3分、東経130度45.8分
発生場所(深さ)	深さ11km	深さ12km
規模 (マグニチュード)	6.5	7.3
最大震度	7(熊本県益城町)	7(熊本県益城町、西原村)

「平成28年(2016年)熊本地震」(気象庁命名)は、平成28年(2016)4月14日21時26分以降に発生した熊本県を中心とする一連の地震活動をさす。

引用：国土交通省気象庁ホーム>各種データ・資料>顕著な地震の観測・解析データ>平成28年(2016年)熊本地震

[地震活動の概要]

- 4月14日21時26分に熊本県熊本地方の深さ約10kmでマグニチュード(M)6.5の地震が発生した。また、4月16日1時25分に同地方の深さ約10kmでM7.3の地震が発生した。これらの地震により熊本県で最大震度7を観測し、被害を生じた。
- 一連の地震活動は熊本県熊本地方から大分県中部にわたる。熊本県熊本地方では、北東-南西方向に伸びる長さ約50kmの領域で地震活動が活発である。また、熊本県阿蘇地方では4月16日のM5.8の地震により熊本県で最大震度6強を観測したほか、大分県中部では4月16日のM7.3の地震発生直後に別の地震が発生し、最大震度6弱を観測するなど、M7.3の地震発生直後から地震活動が見られている。

[発震機構]

- 4月14日のM6.5の地震の発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内の浅い地震である。この地震の余震分布と発震機構から推定される震源断層は北北東-南南西方向に伸びる右横ずれ断層であった。
- 4月16日のM7.3の地震の発震機構は南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内の浅い地震である。この地震の余震分布と発震機構から推定される震源断層は、北東-南西方向に伸びる右横ずれ断層で正断層成分を含むものであった。

[強震動]

- 4月14日のM6.5の地震に伴い、熊本県内のKiK-net 益城観測点で1,580gal(三成分合成)、また、4月16日のM7.3の地震に伴い、熊本県大津町の自治体震度観測点で1,791gal(三成分合成)など、大きな加速度を観測した。

[地殻変動]

- GNSS観測の結果によると、4月14日のM6.5の地震及び4月15日のM6.4の地震の発生に伴って、熊本県内の城南観測点が北北東方向に約20cm移動するなどの地殻変動が、また、4月16日のM7.3の地震の発生に伴って、熊本県内の長陽観測点が南西方向に約98cm移動するなどの地殻変動が観測されている。陸域観測技術衛星2号「だいち2号」が観測した合成開口レーダー画像の解析結果によると、熊本県熊本地方から阿蘇地方にかけて地殻変動の面的な広がりが見られ、布田川断層帯の布田川区間沿い及び日奈久断層帯の高野-白旗区間沿いに大きな変動がみられる。これらの地殻変動から、すべりを生じた震源断層の長さは約35kmであると推定される。

引用：平成28年5月13日地震調査研究会推進本部 地震調査委員会『平成28年(2016)熊本地震の評価』

第2節 地震発生以降の経過（平成29年（2017）12月31日まで）

平成28年

- 4月14日 21時26分。地震発生（後に前震と分類）。職員参集。被害状況の確認。城内は警備員を常駐。百間石垣の崩落で市道が塞がれ、車輛の通行を禁止。二の丸広場を避難所として開放。
- 4月15日 熊本城有料域は閉園。被害状況をまとめ、熊本県・文化庁へ資料を提出。
- 4月16日 1時25分。地震発生（後に本震と分類）。職員参集し、被害・避難者確認を行う。道路閉鎖と城内閉鎖。被害・避難者を二の丸広場に集約。余震が激しく被害調査も難航。
- 4月17日 熊本城被害状況の報道発表。
- 4月21日 熊本城災害復旧支援金口座開設。
- 4月22日 国土交通省、文化庁文化財調査官熊本城内視察。
- 5月1日 馳浩文部科学大臣城内視察。
- 5月上旬 被害詳細調査。現況記録作成（写真・測量等）、緊急工事準備を始める。
- 5月9日 文部科学省内に、熊本城などの文化財復旧に向けた専門職員のプロジェクチームを設置。
- 5月10日 馬具櫓石垣が余震で崩落。
- 5月11日 城内危険区域内を報道公開。
- 5月12日 国土交通省、文化庁、熊本県、熊本市が「熊本城公園復旧推進調整会議（仮称）」の初会合。
城彩苑～二の丸広場の歩行通路開通。無料シャトルバス運行再開。
- 5月下旬 緊急工事着手に着手する。以下4点を中心として実施する。①道路や民地に崩落した石材の撤去②建物の倒壊防止③地盤亀裂箇所の雨水対策④工事車両の通路確保。
- 5月25日 百間石垣の応急工事・発掘調査着手。
- 6月1日 天守閣ほかライトアップ再開。
- 6月7日 東十八間櫓下石垣（民間駐車場）の崩落石撤去作業着手。
- 6月8日 加藤神社北側道路開通。
- 6月9日 義家弘介文部科学副大臣城内視察。
- 6月13日 百間石垣の崩落石材の回収作業着手。
飯田丸五階櫓崩落防止工事着手。
- 6月24日 宮内橋際の崩落石材の回収作業着手。
- 7月19日 東十八間櫓部材回収作業着手。
- 7月26日 市長「熊本城復旧の基本的な考え方」を発表。
- 7月28日 定期公開。危険区域内を再公開。
- 7月下旬 飯田丸五階櫓・南大手門倒壊防止緊急措置、百間石垣など石材回収。
- 8月1日 百間石垣正面の市道開通。
- 8月11日 監物台樹木園再開。
- 8月15日 天守閣復旧事業について、技術提案を民間業者に求める「公募型プロポーザル」の手続きを始める。
- 9月3日 文化庁、国指定文化財に対する災害復旧事業の補助率の引き上げ。
- 9月5日 熊本城公園復旧推進調整会議 開催。
- 9月8日 頬当御門周辺の崩落石材回収作業着手。
- 9月21日 頬当御門周辺の石垣・建築部材撤去工事、建築部材の保管庫を公開。
- 10月11日 文化庁、「熊本城支援室」を設置。
- 10月上旬 被災6ヶ月の被害再点検を実施。大きな変化なし。
- 10月12日 定期公開。本丸御殿・大天守入口内部の公開。
- 10月21日 平成28年度第1回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 開催。
- 10月21日 平成28年度第1回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 計画策定部会 開催。

- 10月22日 平成28年度第1回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 史跡部会・建築部会（合同開催）。
- 11月1日 「復興城主」制度開始。
- 11月4日 天守内部映像を公開。
- 11月18日 宇土櫓内部映像を公開。
- 11月22日 熊本市、熊本県に熊本城復旧へ専門職員の派遣を要望。
- 12月1日 加藤神社境内の崩落石材回収作業着手。
- 12月2日 定期公開。加藤神社・頬当御門・大イチョウの公開。
- 12月11日 平成28年度第2回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 史跡部会・建築部会（合同開催）。
- 12月14日 北十八間櫓石材回収作業着手。
- 12月23日 熊本県立美術館本館から熊本県護国神社間の通行止め解除。
- 12月26日 「復旧基本方針」策定。

平成29年

- 1月5日 北十八間櫓部材回収工事着手。
- 1月6日 山崎口（櫓方門周辺）の崩落石材回収工事着手。
- 1月20日 平成28年度第1回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 活用部会 開催。
- 1月24日 定期公開。櫓方門・長堀・頬当御門・スロープ・七間櫓・天守前広場。
- 2月10日 熊本城天守閣復旧整備事業着手。
- 3月1日 平成28年度第3回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 史跡部会・建築部会（合同開催）。
- 3月2日 平成28年度第2回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 計画策定部会 開催。
- 3月6日 平成28年度特別史跡熊本城跡保存活用委員会 第1回絵図・文献部会 開催。
- 3月17日 頬当御門から天守前広場までの仮設スロープ設置完了。
- 3月24日 定期公開。東竹の丸、天守前広場、スロープ、奉行丸、桜公開。
- 4月17日 平成29年度特別史跡熊本城跡第1回保存活用委員会 開催。
- 4月17日 平成29年度特別史跡熊本城跡第1回天守復興部会 開催。
- 4月24日 飯田丸五階櫓の崩落石材回収作業着手。
- 6月1日 平成29年度特別史跡熊本城跡 文化財修復検討部会 開催。
- 6月9日 平成29年度特別史跡熊本城跡 第2回天守復興部会 開催。
- 6月12日 大天守石垣上面の発掘調査着手。
- 6月17日 現代美術館で天守模型の展示始まる。
- 6月21日 湧々座で大天守上面から出土した遺物の展示始まる。
- 7月13日 二の丸広場の見学通路設置。
- 7月27日 飯田丸五階櫓倒壊防止受構台の移動作業実施。
- 8月1日 熊本城観覧区域を一部拡大。
- 8月4～6日 「みんなの熊本城」オープンハウス開催。
- 8月17～18日 「よみがえる熊本城復興見学ルート」案内板設置。
- 8月18日 平成29年度特別史跡熊本城跡 第3回天守復興部会開催。
- 8月27日 「みんなの熊本城」市民ワークショップ開催。
- 8月30日 湧々座で大小天守の鯨お披露目。展示始まる。
- 9月9日 飯田丸仮受構台の解体が終了。
- 9月14日 熊本城復旧基本計画策定委員会 第2回会合開催。
- 9月28日 平成29年度特別史跡熊本城跡 第2回文化財修復検討部会開催。
- 10月23日 平成29年度特別史跡熊本城跡 第4回天守復興部会開催。
- 10月26日 熊本城復旧基本計画策定委員会 第3回会合開催。
- 11月2日 定期公開。天守閣、宇土櫓、飯田丸の工事進捗状況。
- 12月12日 平御櫓続堀解体開始。
- 12月16日 熊本城復旧基本計画策定委員会 第4回会合。
- 12月25日 平成29年度特別史跡熊本城跡 第4回文化財修復検討部会開催。

第3節 被害の状況等

平成28年（2016）4月14日に発災した平成28年熊本地震（以下「熊本地震」という。）により、熊本城は過去に類を見ない甚大な被害を受けた。

その被害は、倒壊・崩落一部損壊等を含め重要文化財建造物13棟及び再建・復元建造物20棟（以下「建造物等」という。）の全てが被災し、石垣は全体の約3割に当たる約23,600㎡に崩落や膨らみ・緩みなど修復を要する箇所が見受けられるほか、便益施設等26棟も屋根や壁が破損し、地盤についても約12,345㎡に陥没や地割れが発生するなど、熊本城全域に及ぶ。

この甚大な被害を受けた熊本城の復旧には長い歳月と多大な経費を要することが見込まれ、現在把握している被害だけでも、その被害額は概算で約634億円に上る。

表4 熊本城の被害状況（熊本城域の史跡指定地外を含む）

平成28年（2016）4月14日 21時26分（前震 M6.5）

区分	被害内容等
石垣	崩落6ヶ所 膨らみ・緩み多数
重要文化財建造物	10棟（長堀80m崩壊、9棟は瓦・外壁落下など）
再建・復元建造物	7棟（天守閣瓦落下、壁ひび、堀崩壊など）

平成28年（2016）4月16日 1時25分（本震 M7.3）

区分	被害内容等
石垣	膨らみ・緩み517面約23,600㎡（全体の29.9%） うち崩落229面約8,200㎡（全体の10.3%）
地盤	陥没・地割れ70ヶ所約12,345㎡
重要文化財建造物	13棟（倒壊2棟、一部倒壊3棟、他屋根・壁破損等8棟）
再建・復元建造物	20棟（倒壊5棟、他下部石垣崩壊・屋根・壁破損等15棟）
便益施設等	26棟（屋根・壁破損等）

※ 熊本城全体の石垣：973面約79,000㎡

※ 特別史跡熊本城跡の土地面積：約512,000㎡

表5 特別史跡指定地内石垣被災面積一覧表

地区名	石垣面積		崩壊面積		修復対象面積	
	面数	㎡	面数	㎡	面数	㎡
本丸地区	624 面	55694.95 ㎡	170 面	6617.94 ㎡	399 面	18893.32 ㎡
二の丸地区	99 面	7769.74 ㎡	32 面	1271.31 ㎡	69 面	3571.00 ㎡
古城地区	87 面	8265.72 ㎡	16 面	183.82 ㎡	24 面	622.88 ㎡
三の丸地区	122 面	5478.34 ㎡	4 面	5.60 ㎡	17 面	296.63 ㎡
千葉城地区	6 面	217.63 ㎡	2 面	50.20 ㎡	3 面	78.82 ㎡
合計	938 面	77426.38 ㎡	224 面	8128.87 ㎡	512 面	23462.65 ㎡

※ 2016年5月31日時点での指定地内のすべての石垣を対象として算出

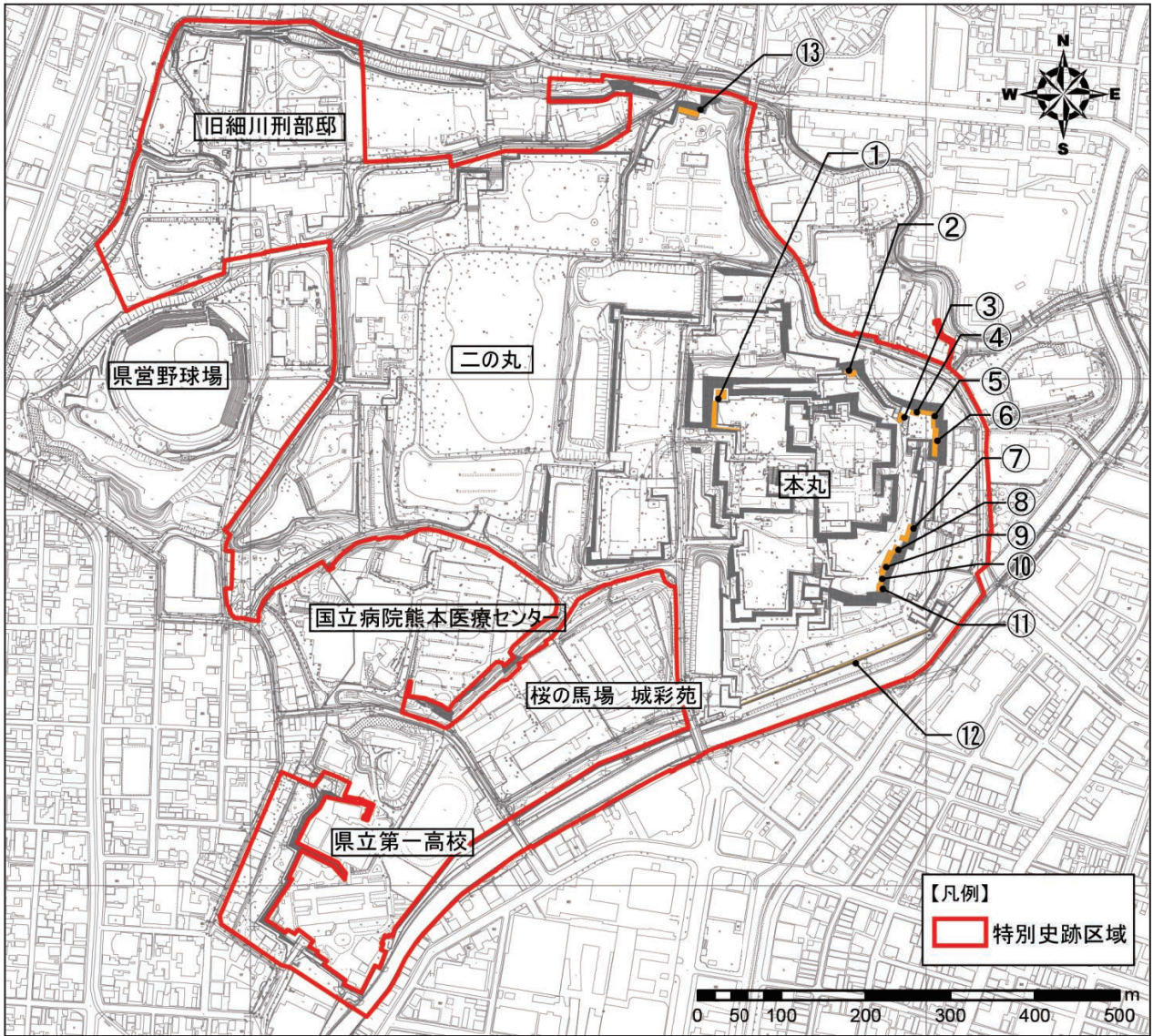
第3章 熊本城の建物被害

第1節 国指定重要文化財建造物

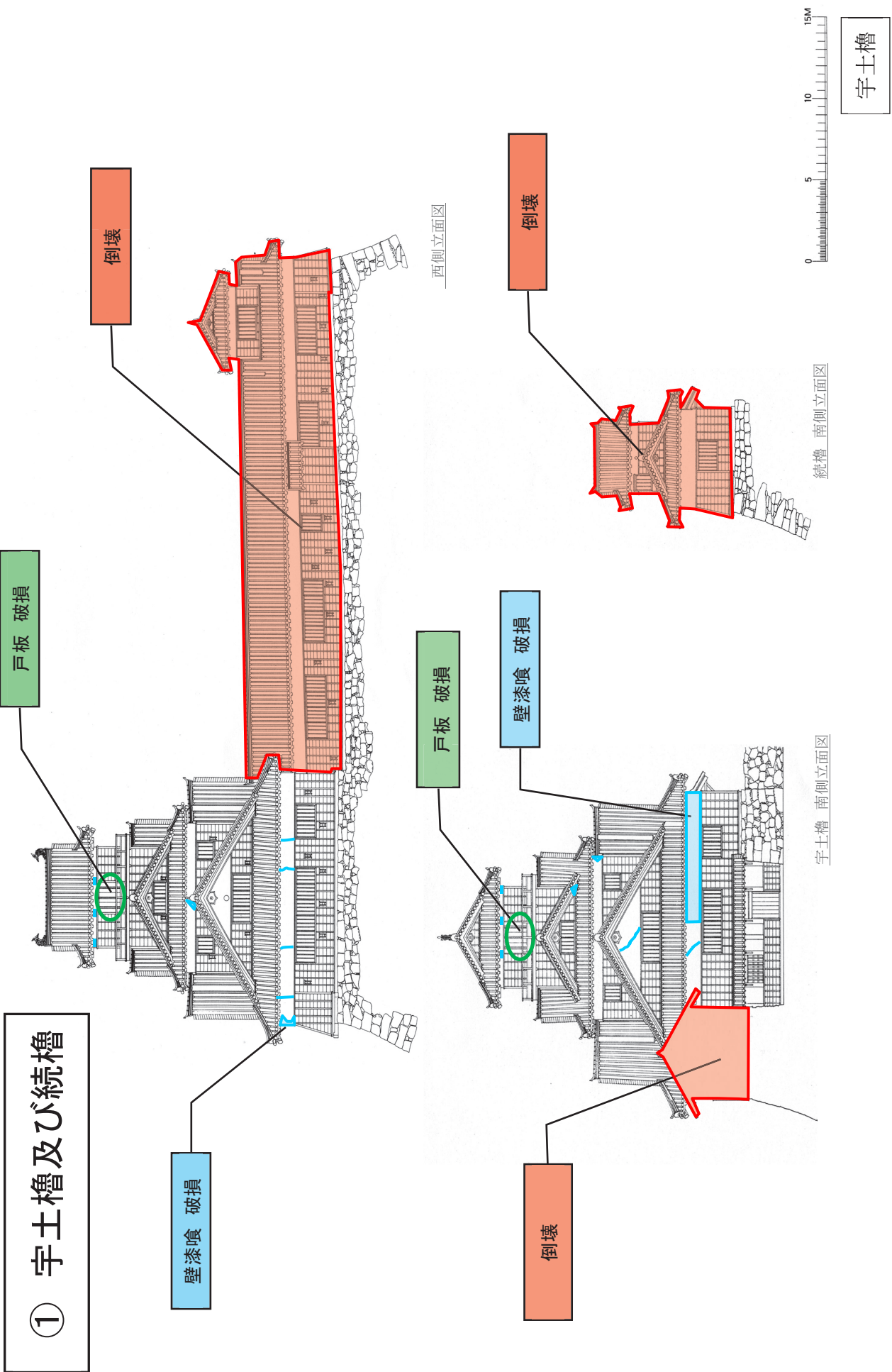
表6 重要文化財被災箇所一覧表

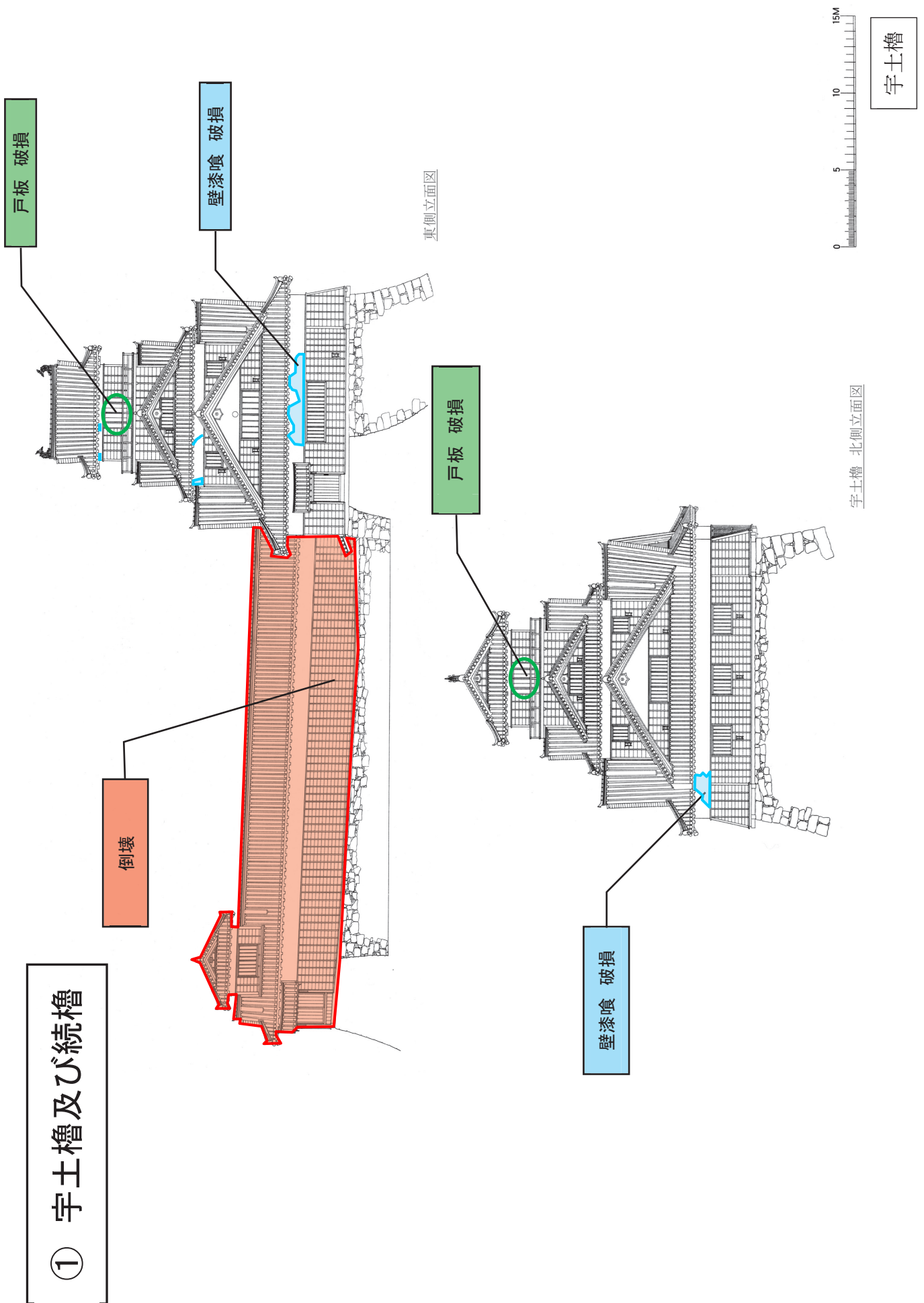
番号	被災箇所	被害状況	歴史、名称の由来、用途等
①	宇土櫓	五階櫓屋根・外壁・建具破損、続櫓倒壊	慶長年間の創建か。昭和2年(1927)、解体修理。平成元年(1989)、半解体修理。
②	平櫓	屋根・外壁・下屋部分破損、倒壊のおそれ	慶長年間の創建か。昭和28年(1953)、解体修理。昭和52年(1977)、部分修理。
③	不開門	一部倒壊(櫓倒壊、門ゆがみ)	慶長年間の創建。慶応2年(1866)の棟札から、この時再建または大修理を実施か。昭和2年(1927)に屋根替え実施。昭和32年(1957)、解体修理。昭和55年(1980)、部分修理。
④	五間櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。昭和36年(1961)、解体修理。昭和58・59年(1983・84)、部分修理。
⑤	北十八間櫓	倒壊	慶長年間の創建か。その後長い年月の間修理が繰り返され、昭和37年(1962)の解体修理の際に当初の状態に戻され現在に至る。昭和58・59年(1983・84)、部分修理。
⑥	東十八間櫓	倒壊	慶長年間の創建か。文久元年(1861)の棟札から、この時再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和37年(1962)、解体修理。昭和58・59年(1983・84)、部分修理。
⑦	源之進櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。安政6年(1859)の棟札から、この時再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和32・33年(1957・58)、解体修理。昭和54年度、部分修理。
⑧	四間櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。慶応2年(1866)、再建または大修理。軍時代に補強改変され、昭和34年(1959)の解体修理で復旧。昭和56年(1981)、部分修理。
⑨	十四間櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。天保15年(1844)再建または大修理。軍時代に補強改変され、昭和34年(1959)の解体修理で復旧。昭和56年(1981)、部分修理。
⑩	七間櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。安政4年(1857)、修理。軍時代に床構造を補強する改変があったが、昭和33年(1958)の解体修理の際に当初の状態に戻され現在に至る。昭和56年(1981)、部分修理。
⑪	田子櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間に創建か。慶応元年(1865)年に再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和2年(1927)、屋根替。昭和33年(1958)、解体修理。昭和56年(1981)、部分修理。
⑫	長堀	一部倒壊、倒壊部分以外も傾斜	加藤時代の創建。西南戦争頃に一時撤去され、その後、陸軍によって復旧されたとみられる。明治22年(1889)の地震では石垣崩落の記録あり。昭和28年(1953)、西側部分82m倒壊。昭和29・30年(1954・55)、復旧・解体修理。昭和34年(1959)、昭和53年(1978)、部分修理。
⑬	監物櫓	建物傾斜、外壁破損	安政7年(1860)棟札から、この時再建または大修理か。昭和29年(1954)、解体修理。昭和53年度、部分修理。

なお、天守閣内に保管・展示してある国指定重要文化財「細川家舟屋形(波奈之丸)」には、何ら被害はなかった。



第4図 重要文化財被害箇所図全体図





① 宇土櫓及び続櫓（西面）



壁漆喰 破損



戸板 破損

倒壊



① 宇土櫓及び続櫓(南面)



壁漆喰 破損



壁漆喰 破損



戸板 破損

倒壊





戸板 破損



壁漆喰 破損

① 宇土櫓及び続櫓(東面)

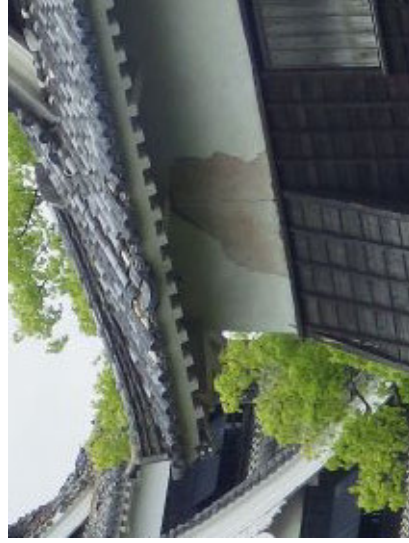
倒壊



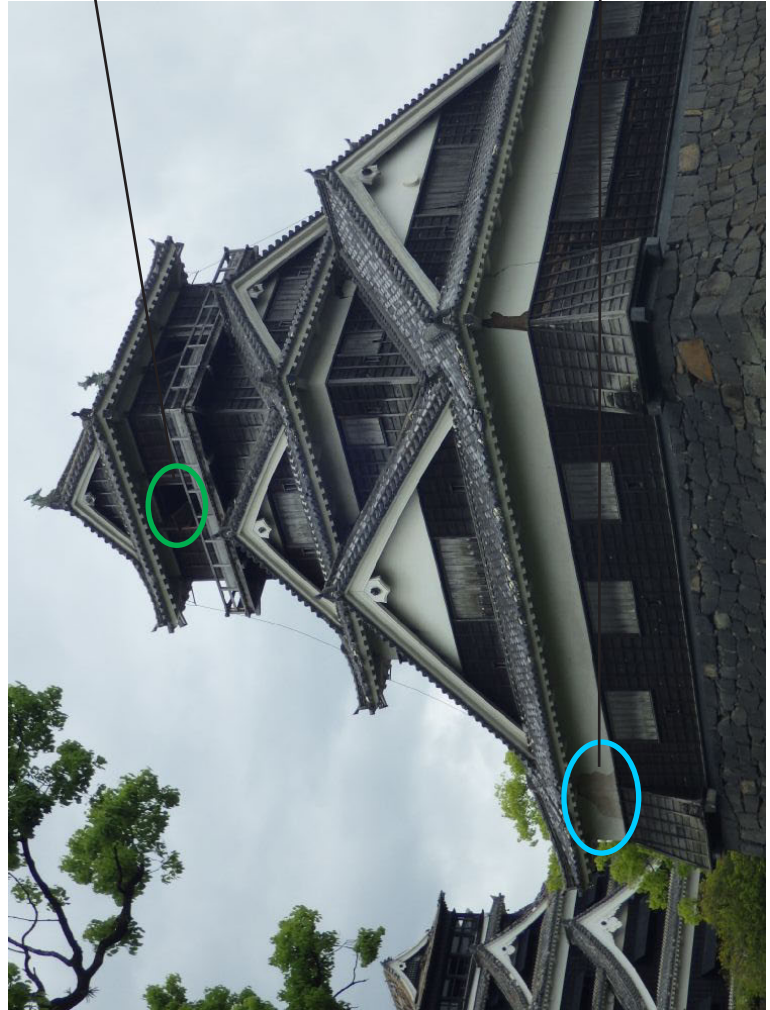
① 宇土櫓及び続櫓(北面)

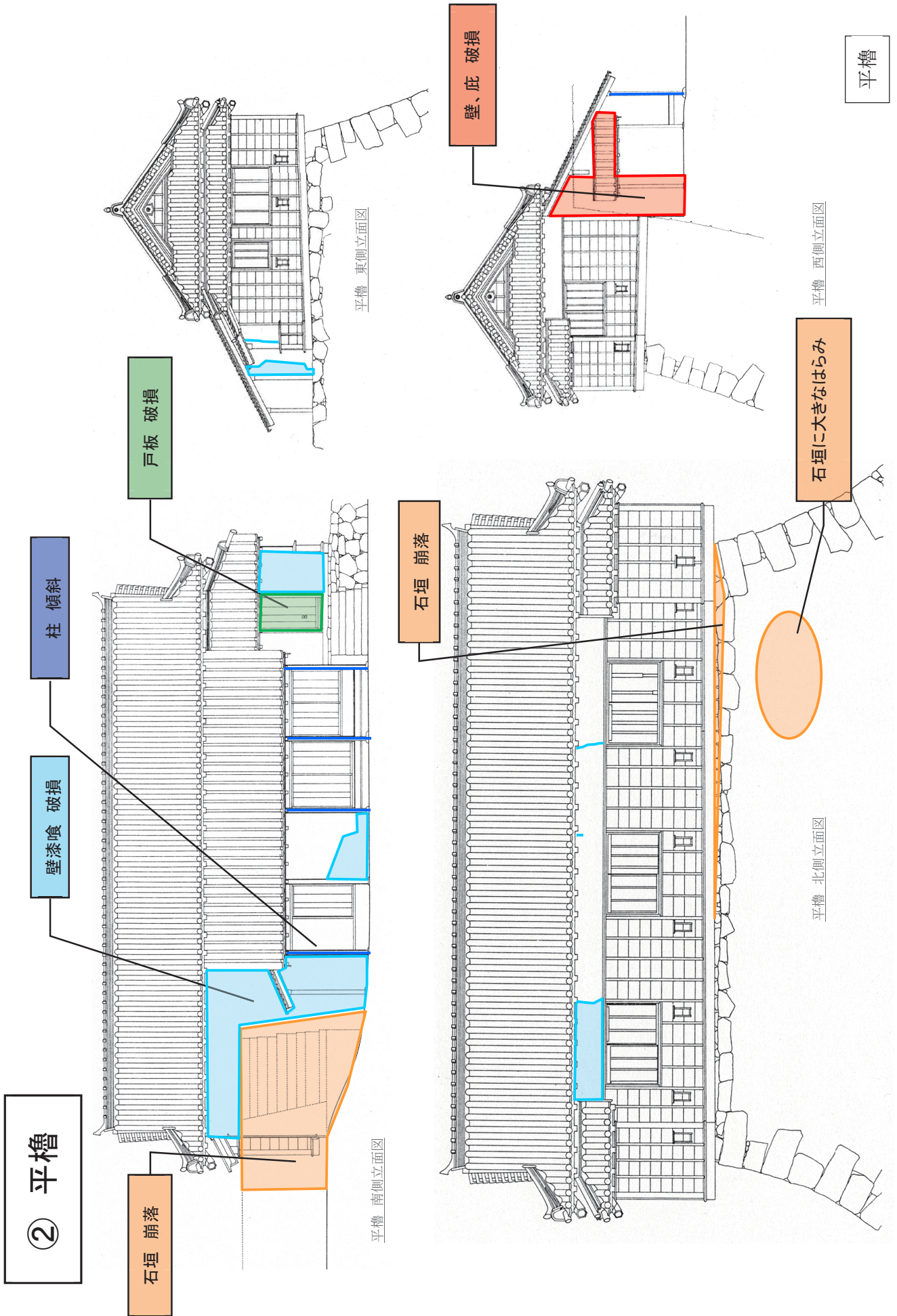


戸板 破損



壁漆喰 破損





② 平櫓(南面)



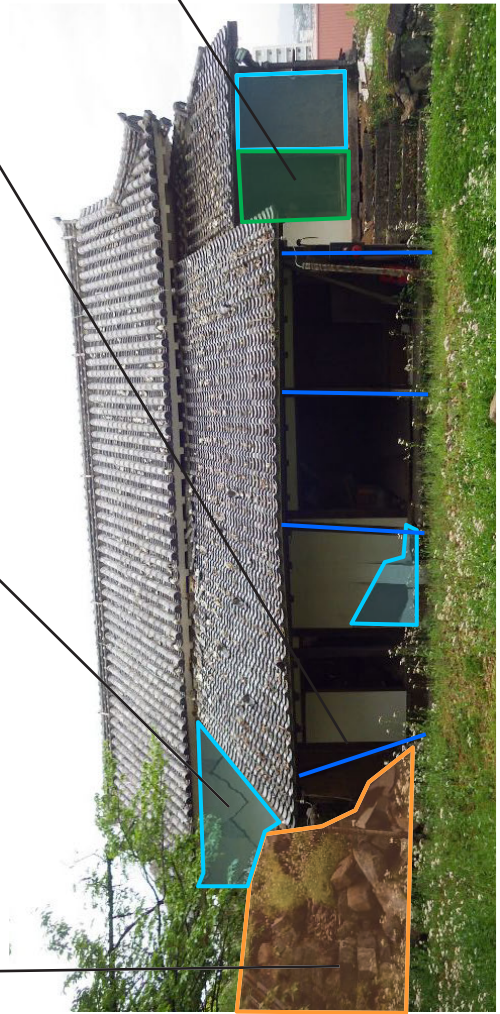
石垣 崩落



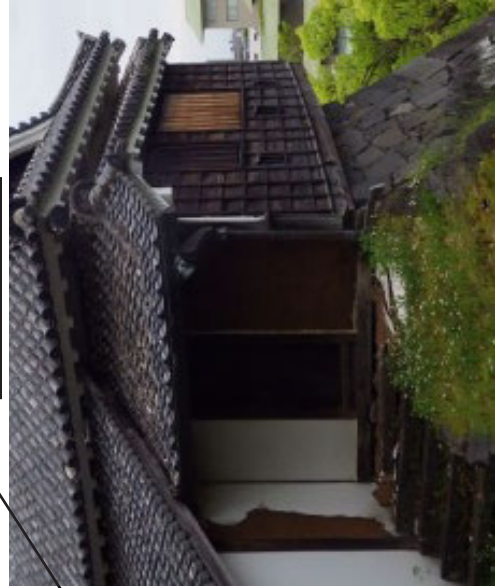
壁漆喰 破損

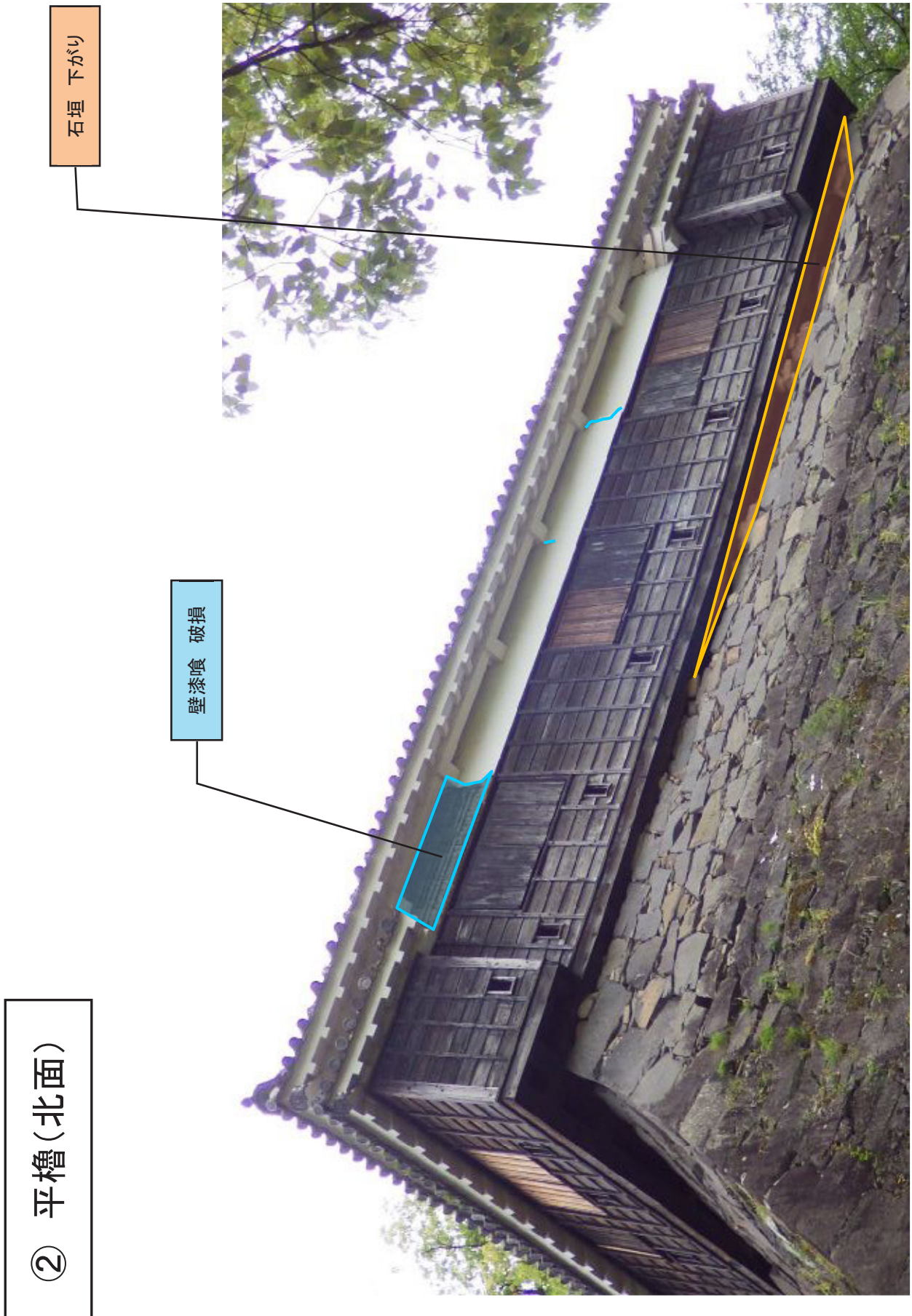


柱 傾斜



戸板 破損





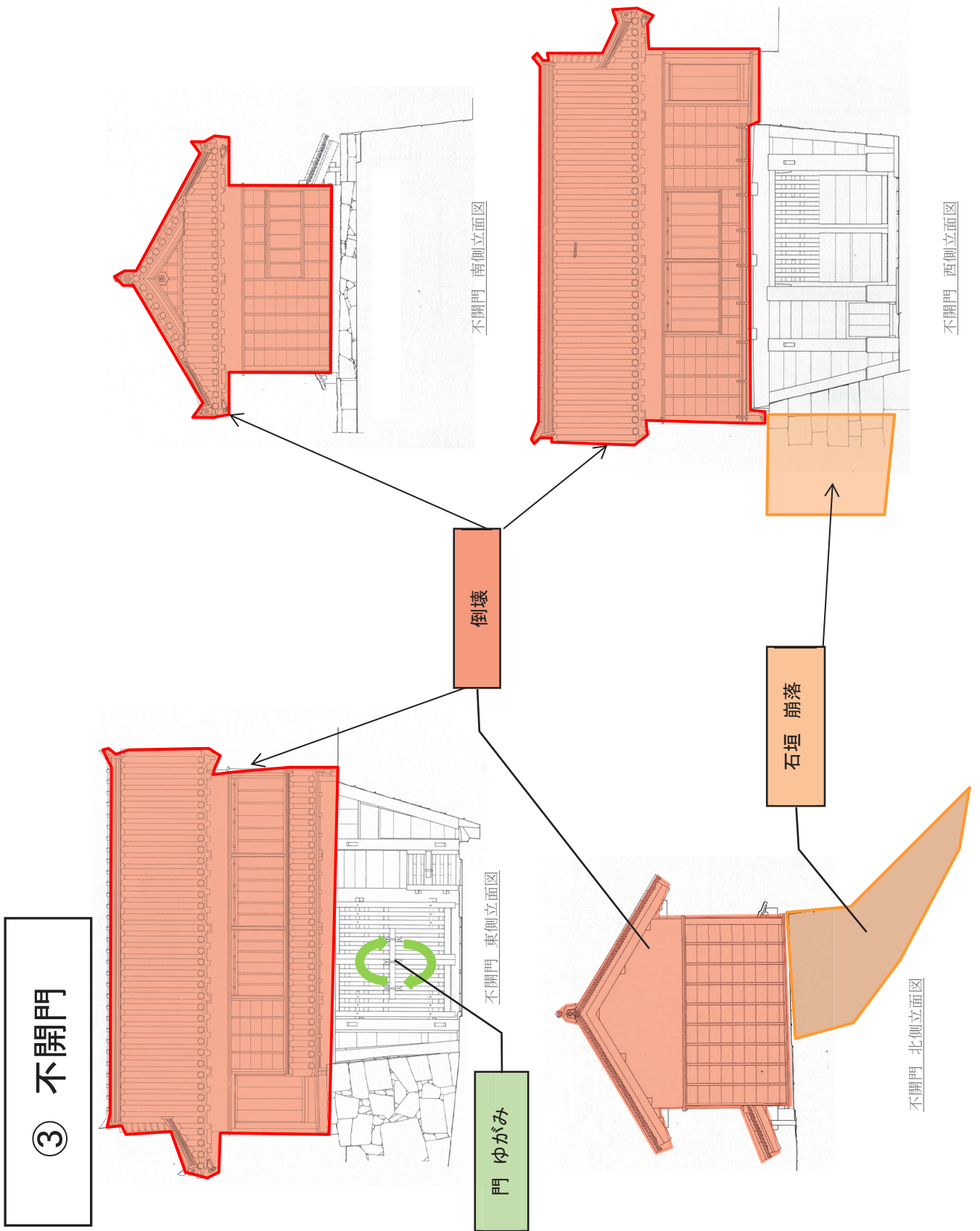
② 平櫓

壁漆喰 破損



壁漆喰 破損



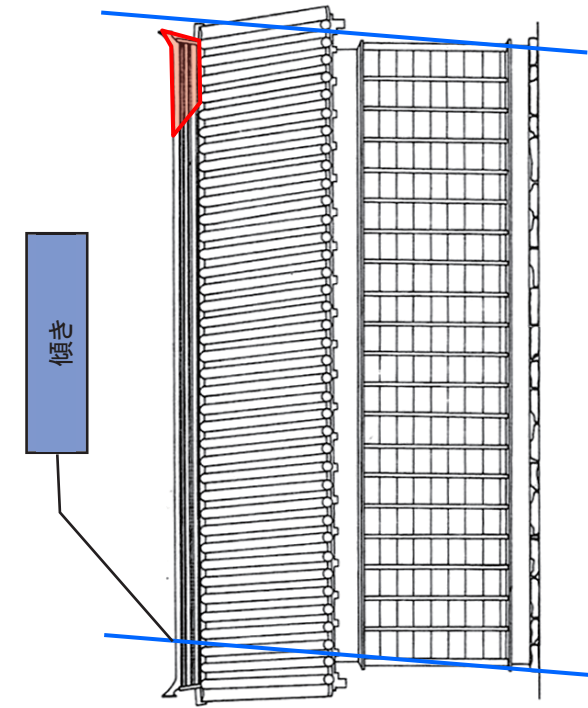




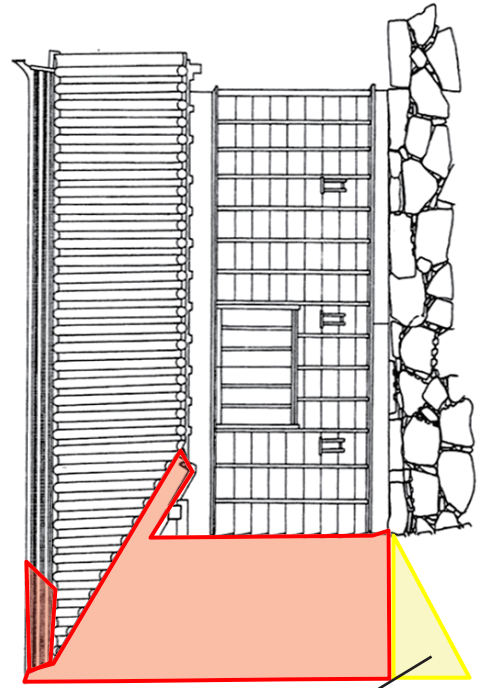
③ 不開門

倒壊

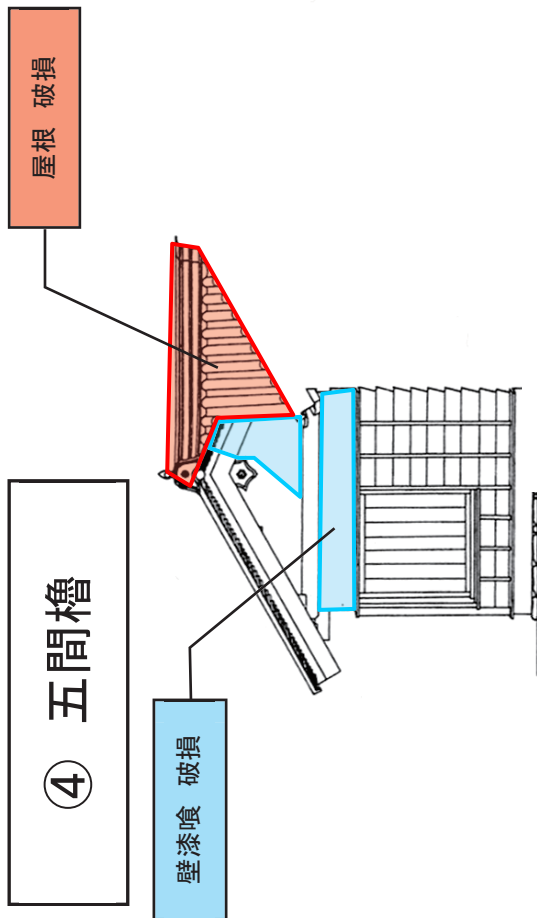




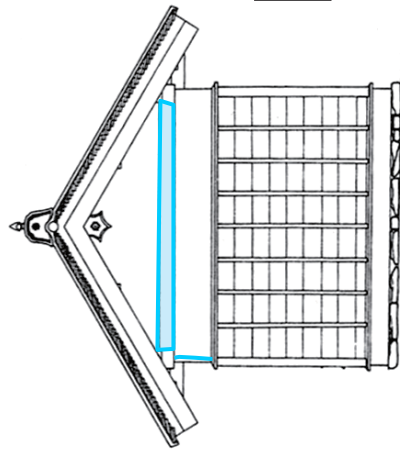
五間櫓 南側立面図



五間櫓 北側立面図



五間櫓 東側立面図



五間櫓 西側立面図

④ 五間櫓(南面)

棟瓦 破損



④ 五間櫓(北面)

櫓 倒壊



④ 五間櫓(東面)

壁漆喰 破損

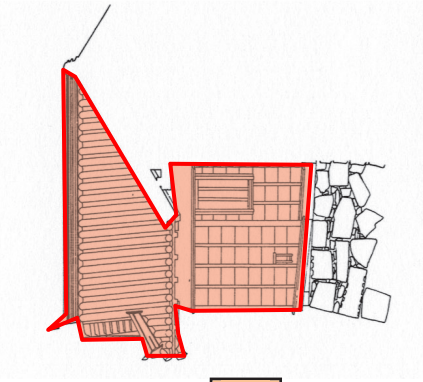
櫓 倒壊



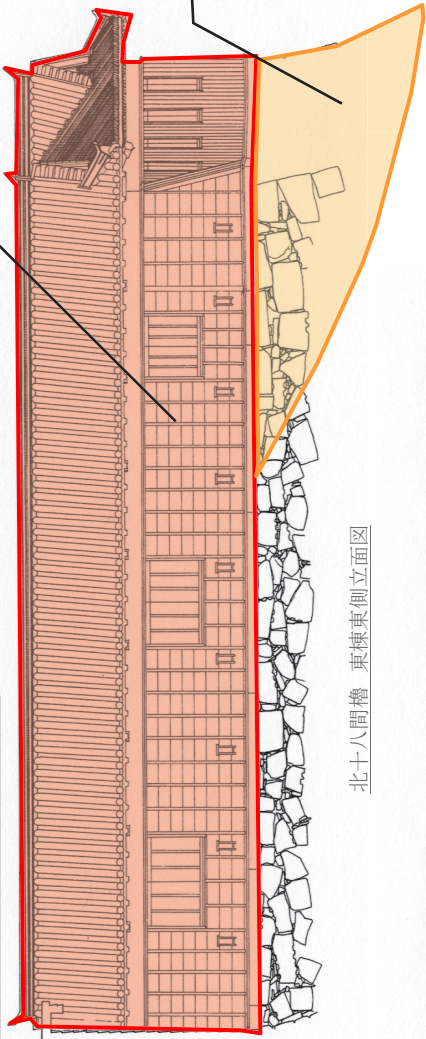
⑤ 北十八間櫓

櫓 倒壊

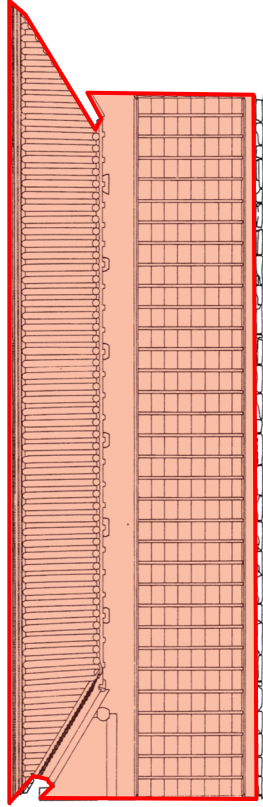
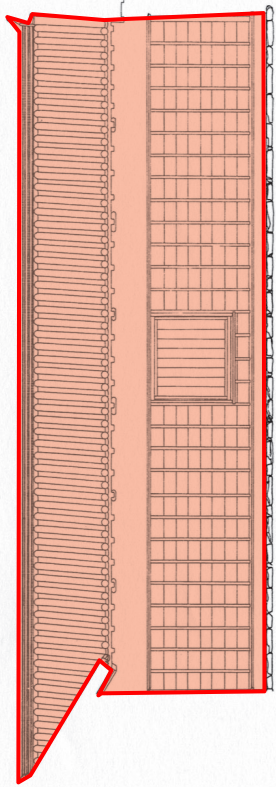
石垣 崩落



北十八間櫓 北棟西側立面図

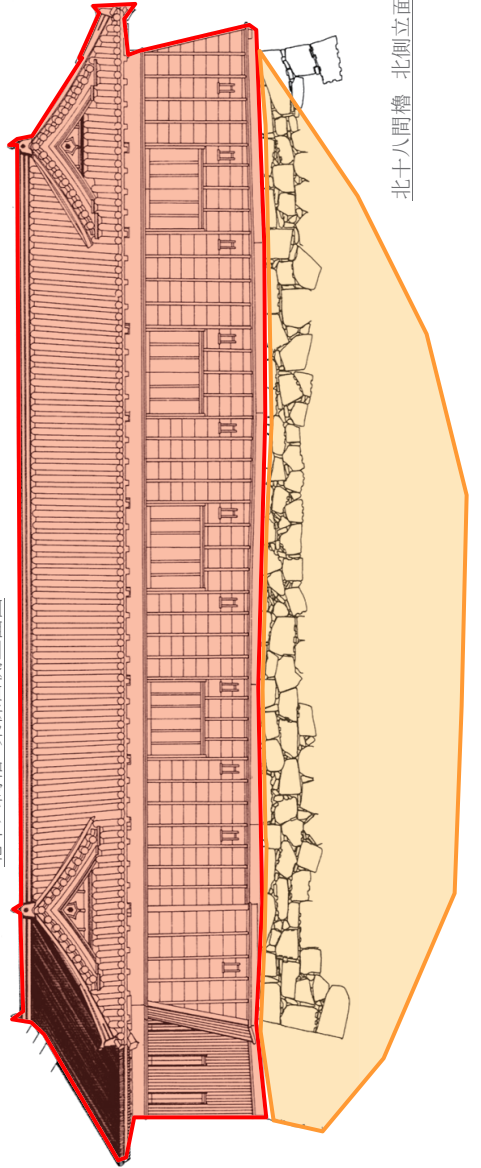


北十八間櫓 東棟東側立面図

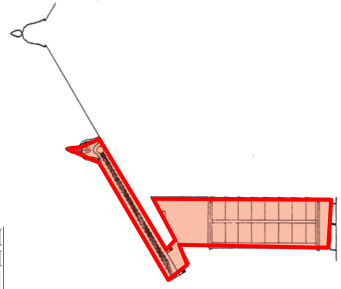


北十八間櫓 北棟南側立面図

北十八間櫓 東棟西側立面図



北十八間櫓 北側立面図



北十八間櫓 東棟南側立面図

⑤ 北十八間櫓

櫓 倒壊



南面



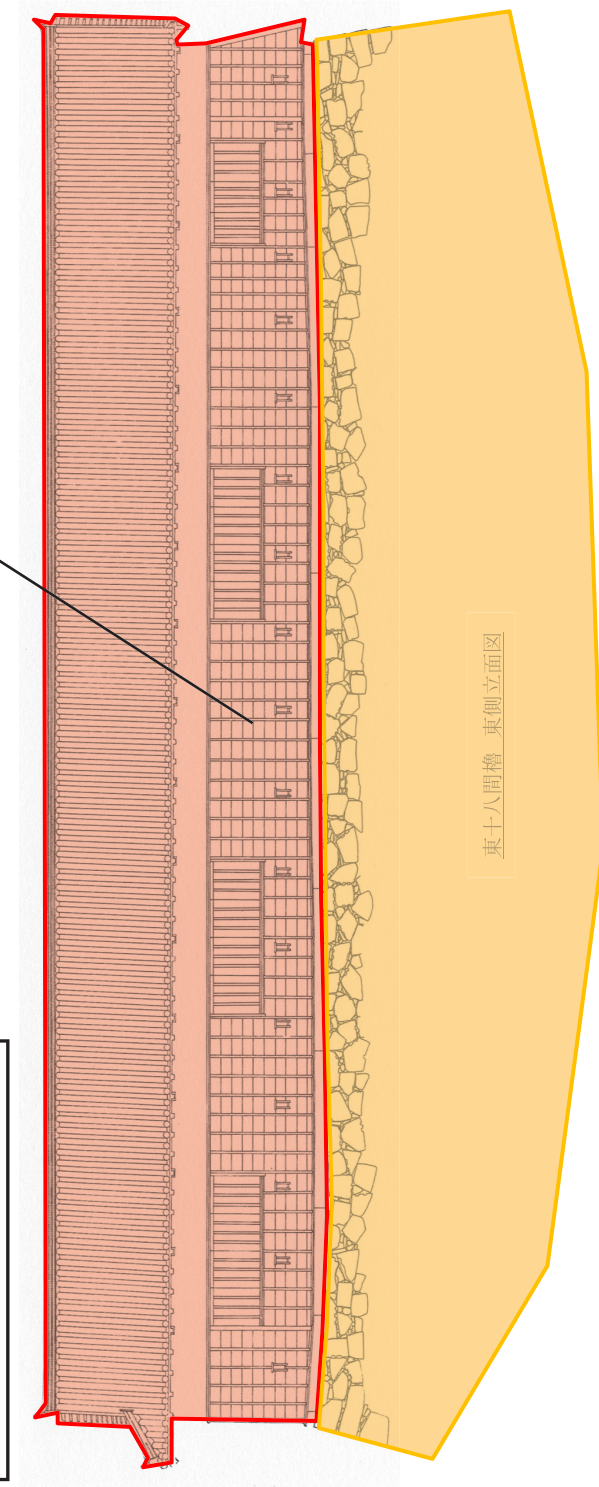
東面



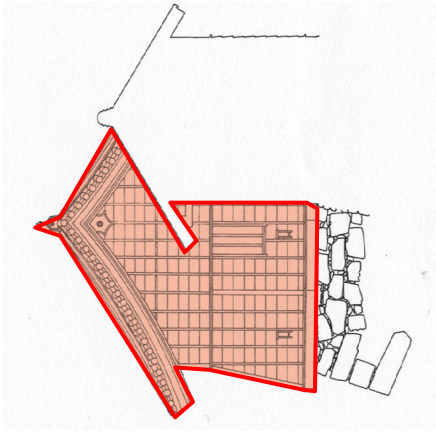
北面

⑥ 東十八間櫓

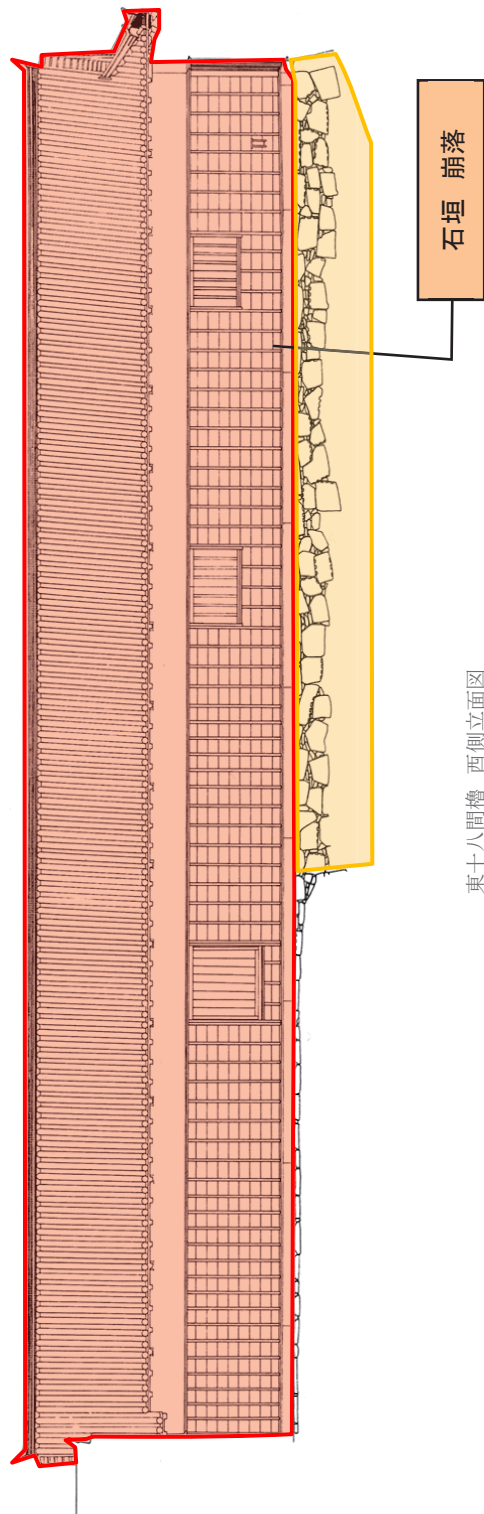
櫓 倒壊



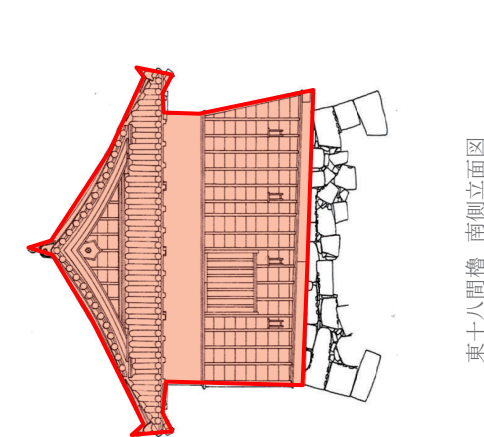
東十八間櫓 東側立面図



東十八間櫓 北側立面図



東十八間櫓 西側立面図



東十八間櫓 南側立面図

東十八間櫓

⑥ 東十八間櫓

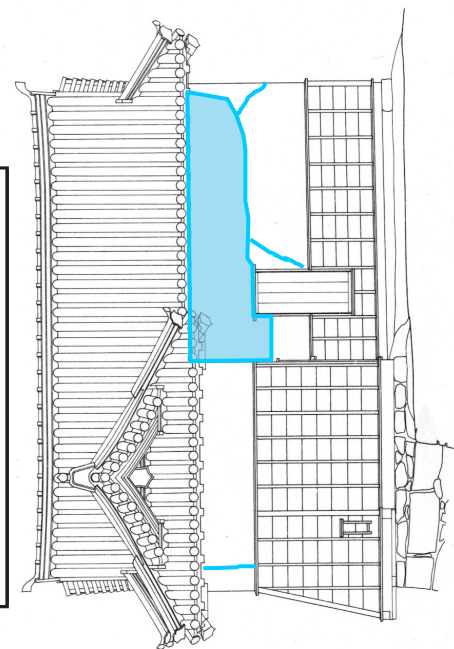


東面

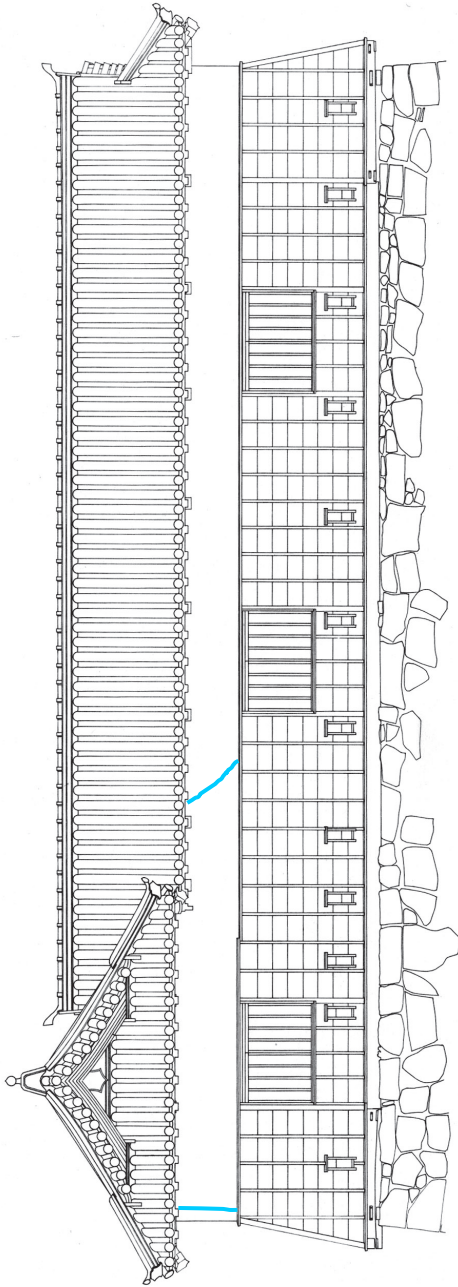


西面

⑦ 源之進槽

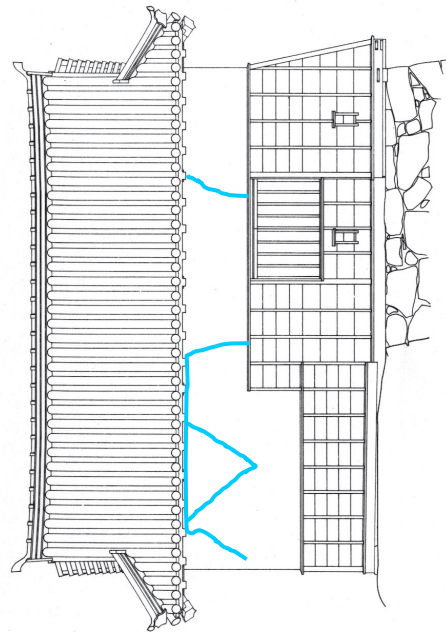


源之進槽 北側立面図

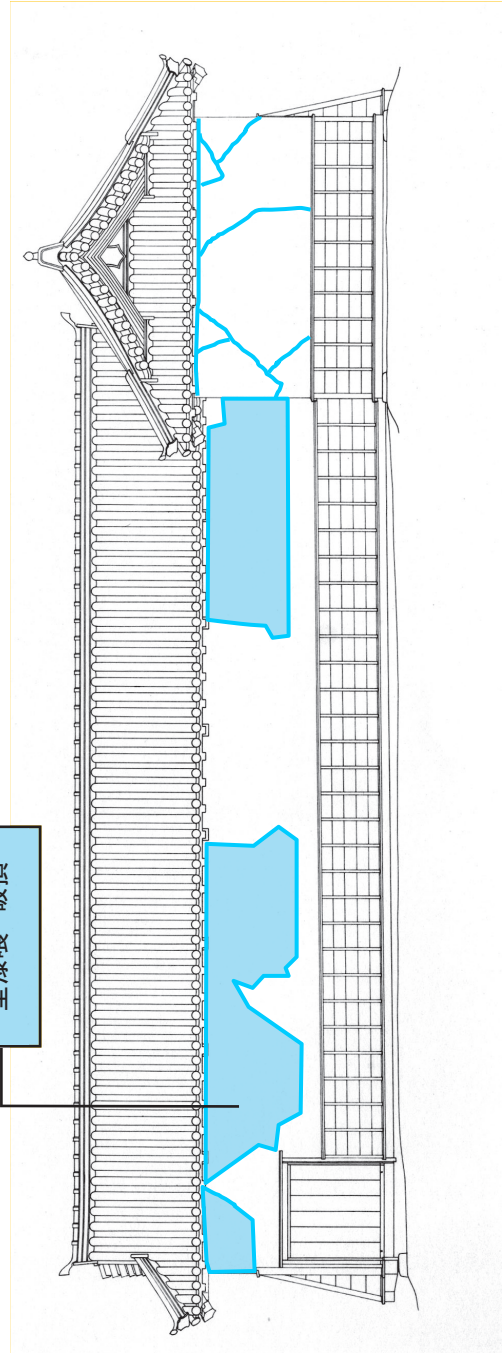


源之進槽 東側立面図

壁漆喰 破損



源之進槽 南側立面図



源之進槽 西側立面図

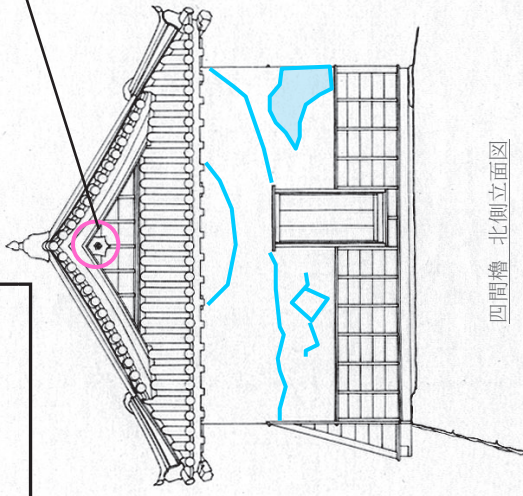
⑦ 源之進櫓

壁漆喰 破損



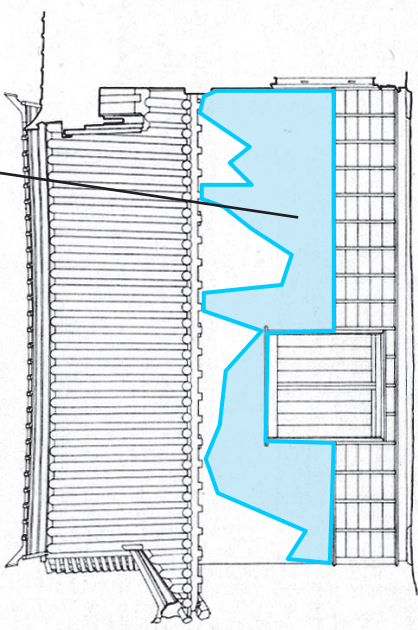
⑧ 四間櫓

懸魚落下

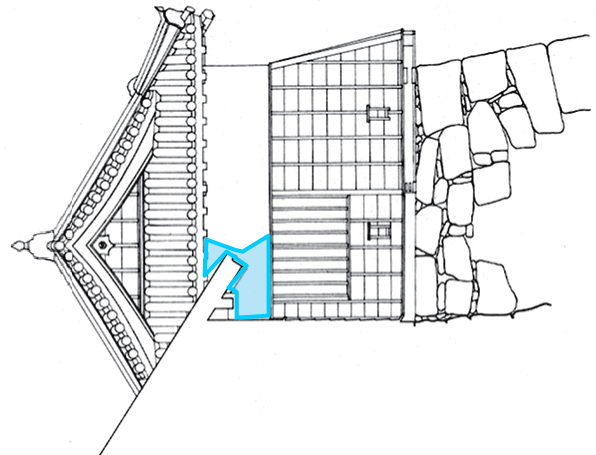


四間櫓 北側立面図

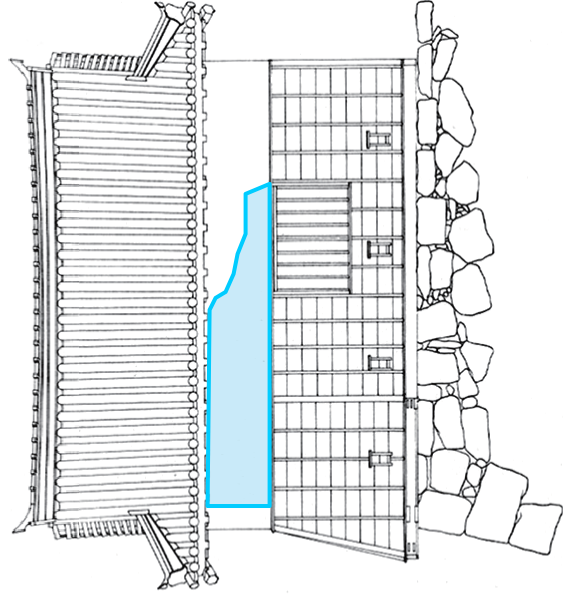
壁漆喰 破損



四間櫓 西側立面図



四間櫓 南側立面図



四間櫓 東側立面図

壁漆喰 破損



西面



東面

⑧ 四間櫓



懸魚落下

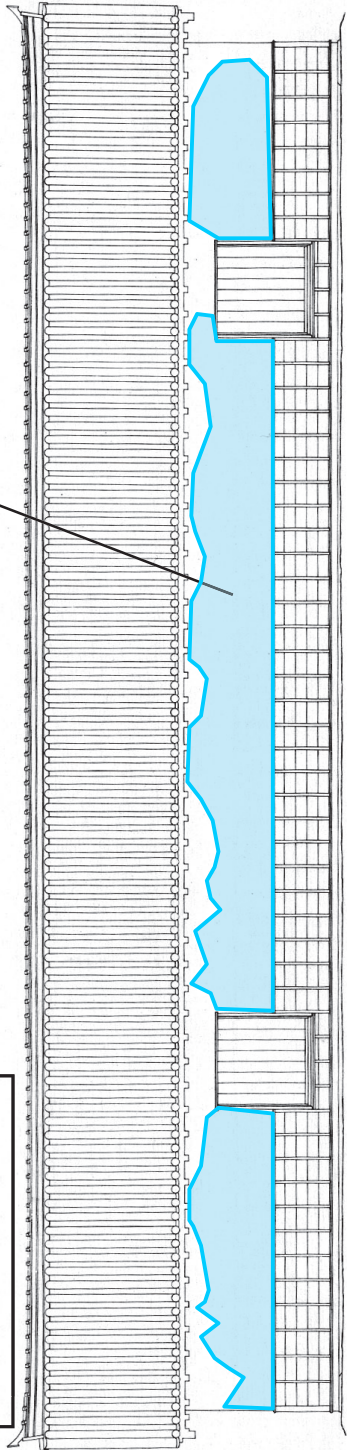
北面



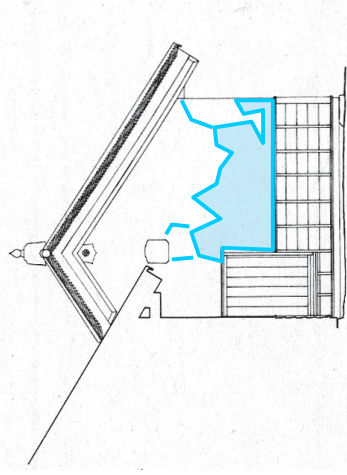
南面

⑨ 十四間櫓

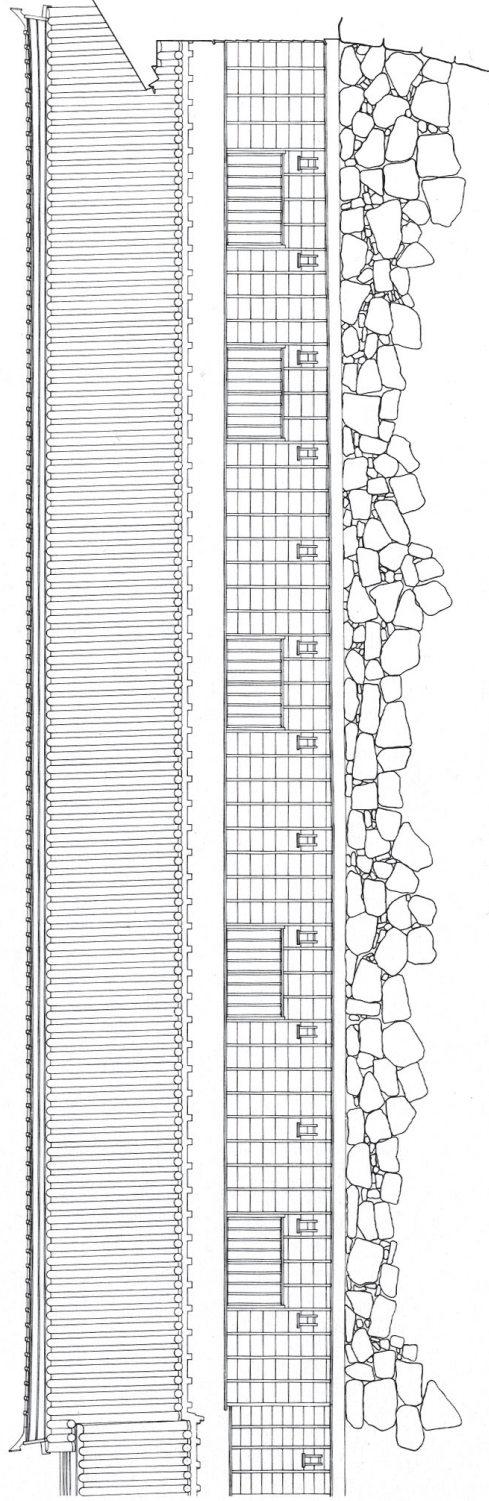
外壁剥落



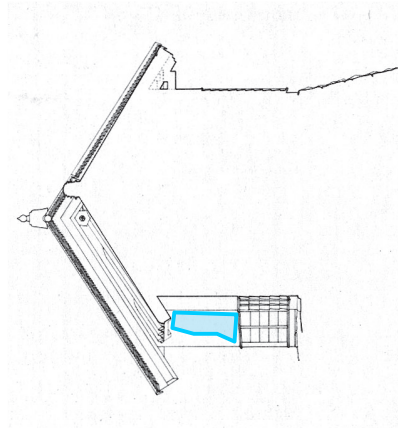
十四間櫓 西側立面図



十四間櫓 北側立面図



十四間櫓 東側立面図



十四間櫓 南側立面図

十四間櫓

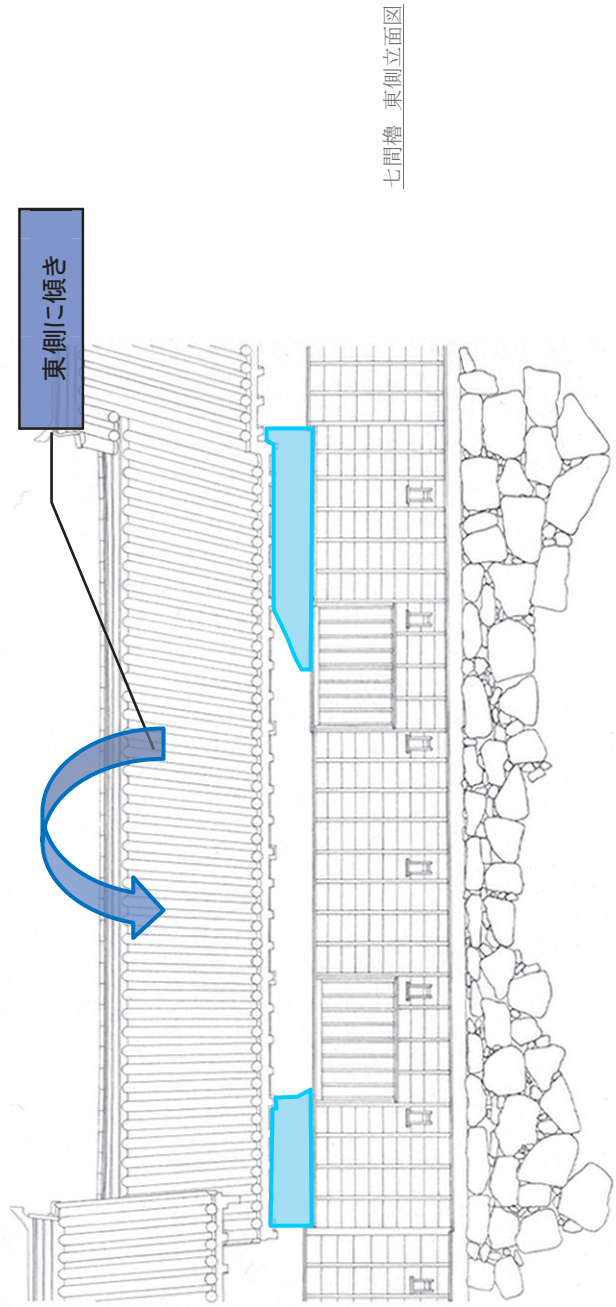
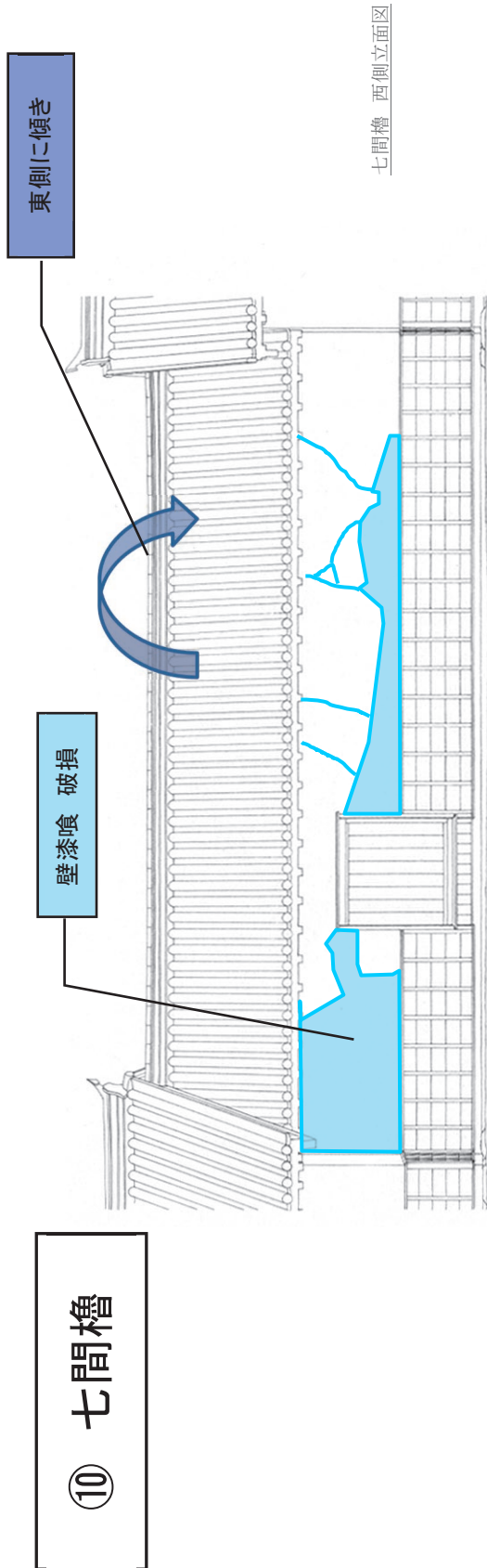
北面



西面



⑨ 十四間櫓



⑩ 七間櫓

壁漆喰 破損



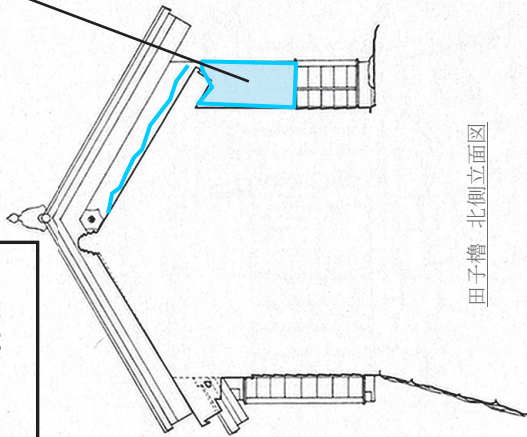
西面



東面

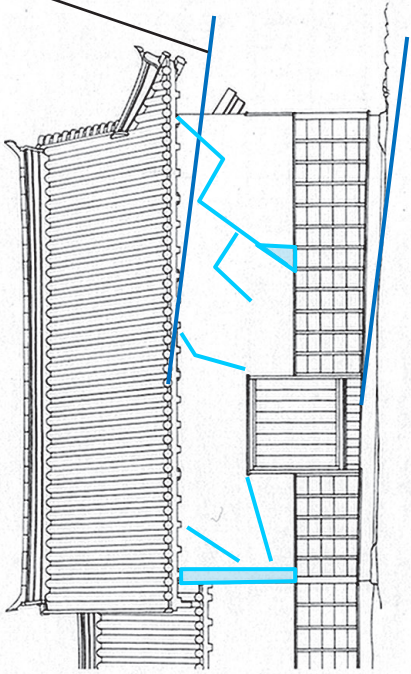
⑪ 田子櫓

壁漆喰 破損



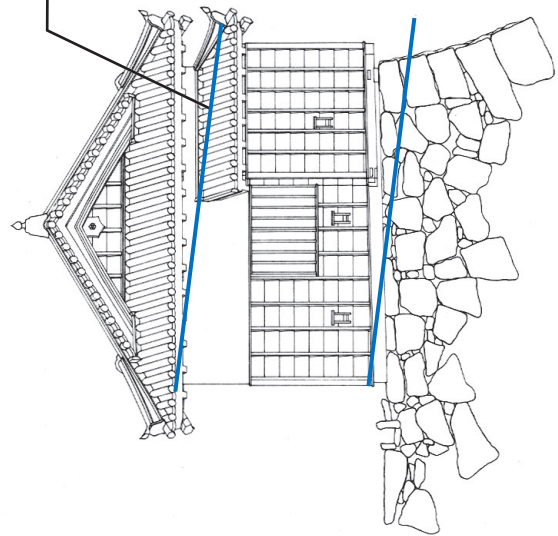
田子櫓 北側立面図

傾き

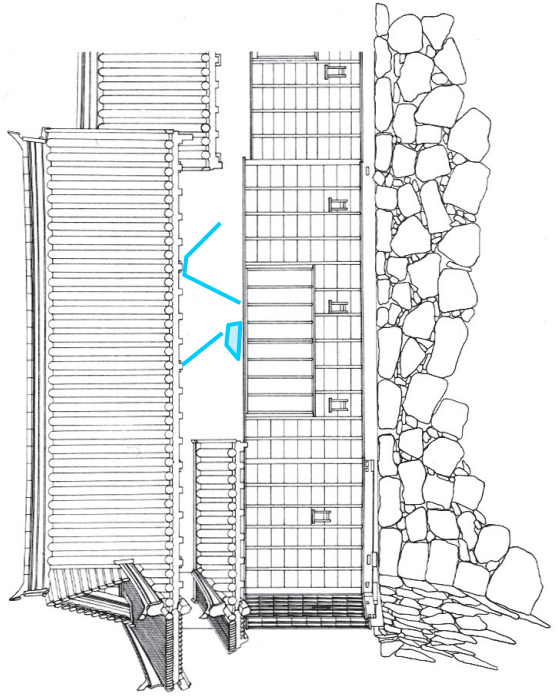


田子櫓 西側立面図

傾き



田子櫓 南側立面



田子櫓 東側立面図

⑪ 田子櫓



西面



北面

壁漆喰 破損



東面

⑫ 長塀



内面 東側



内面 東側



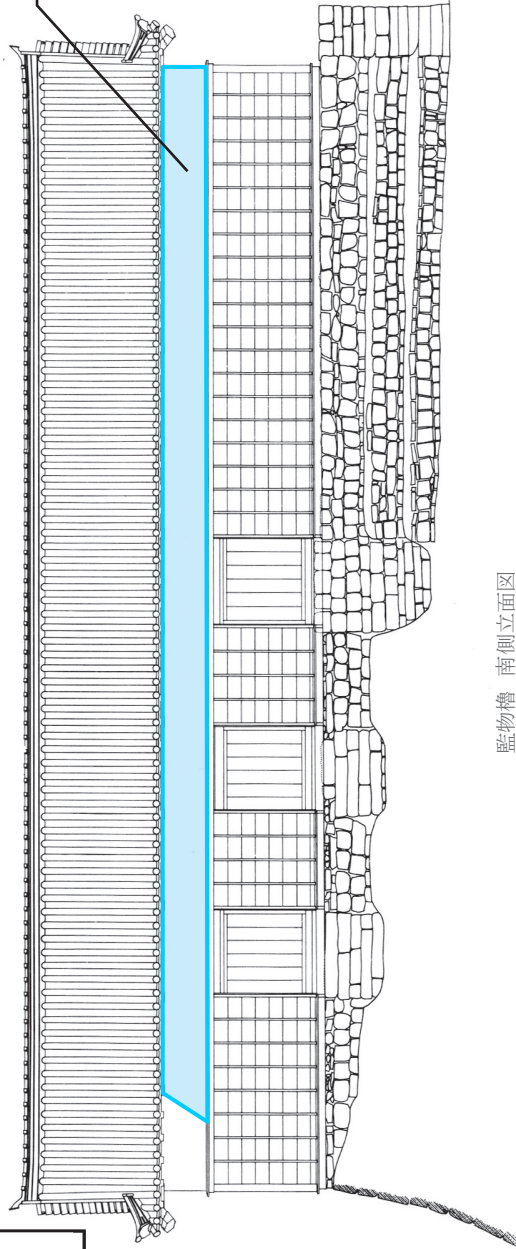
外面 西側



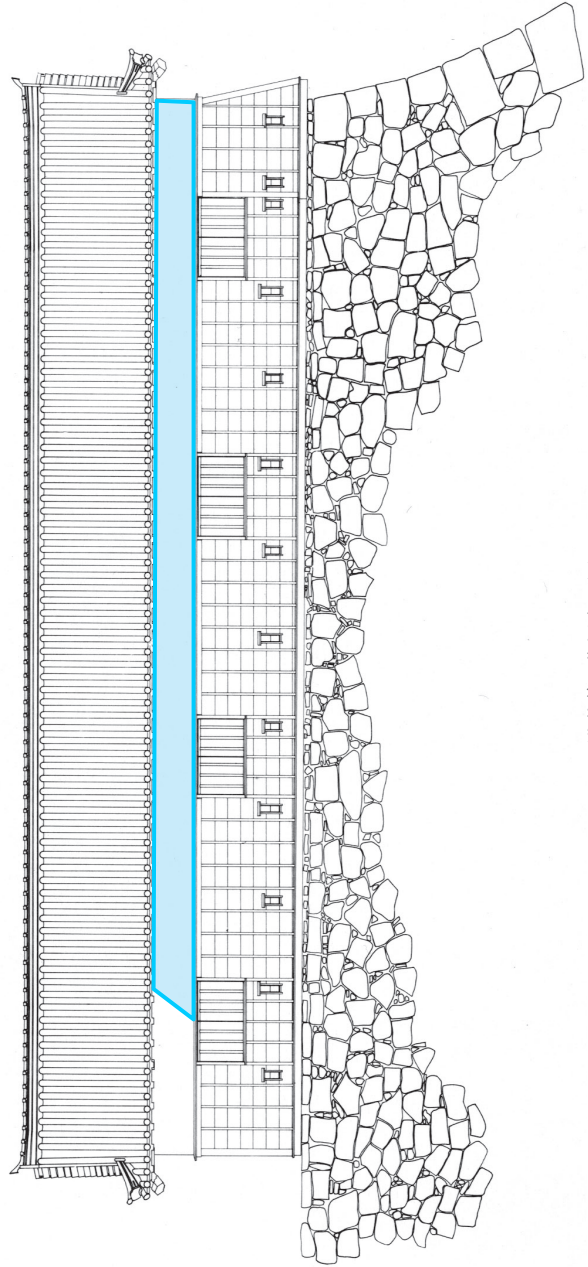
外面 東側

⑬ 監物櫓

壁漆喰 破損

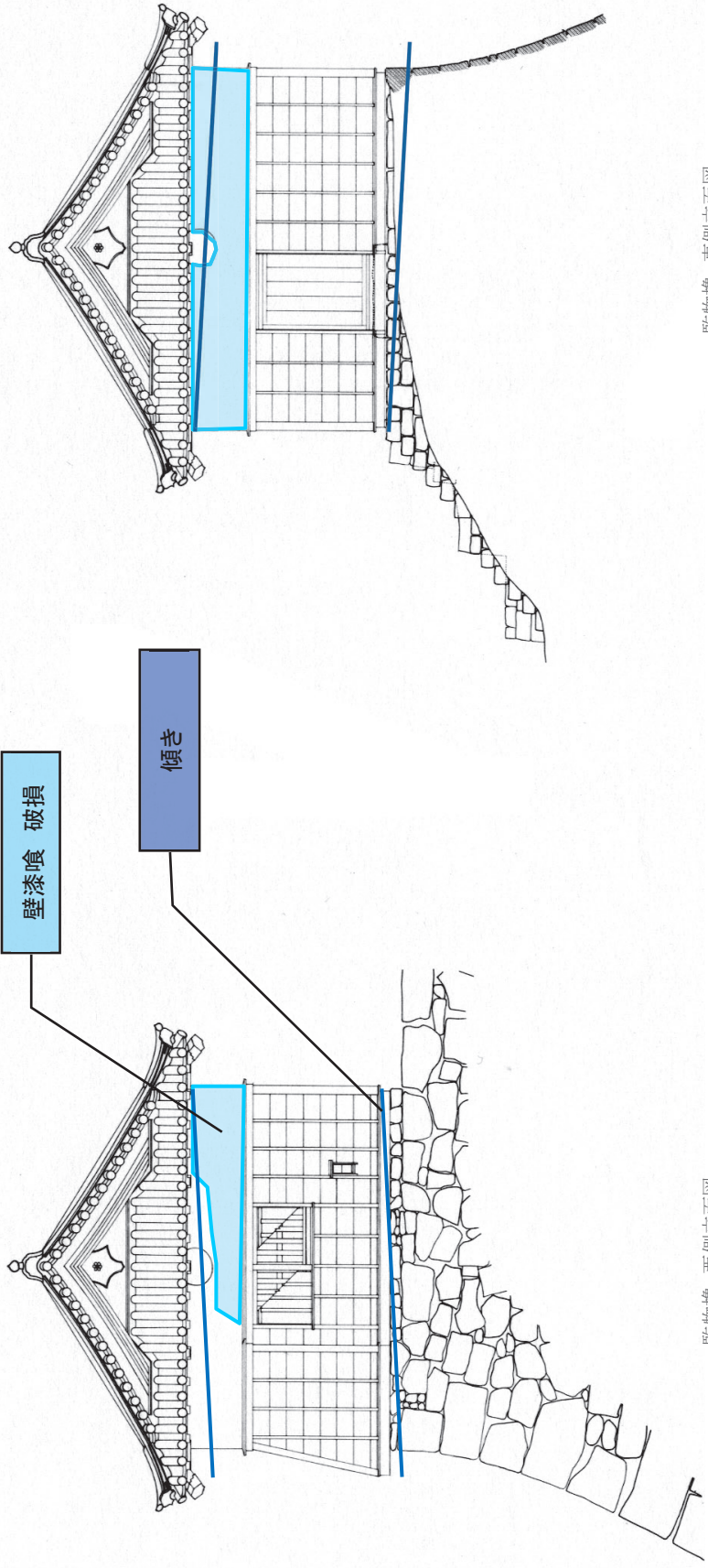


監物櫓 南側立面図



監物櫓 北側立面図

⑬ 監物櫓



監物櫓 東側立面図

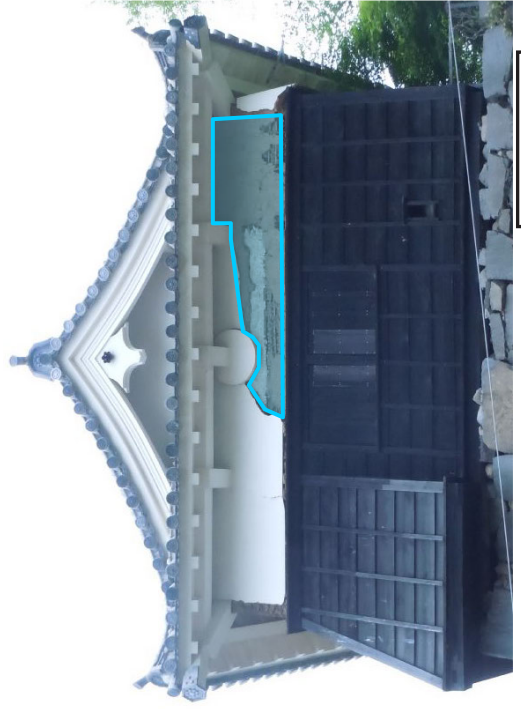
監物櫓 西側立面図

⑬ 監物櫓

壁漆喰 破損



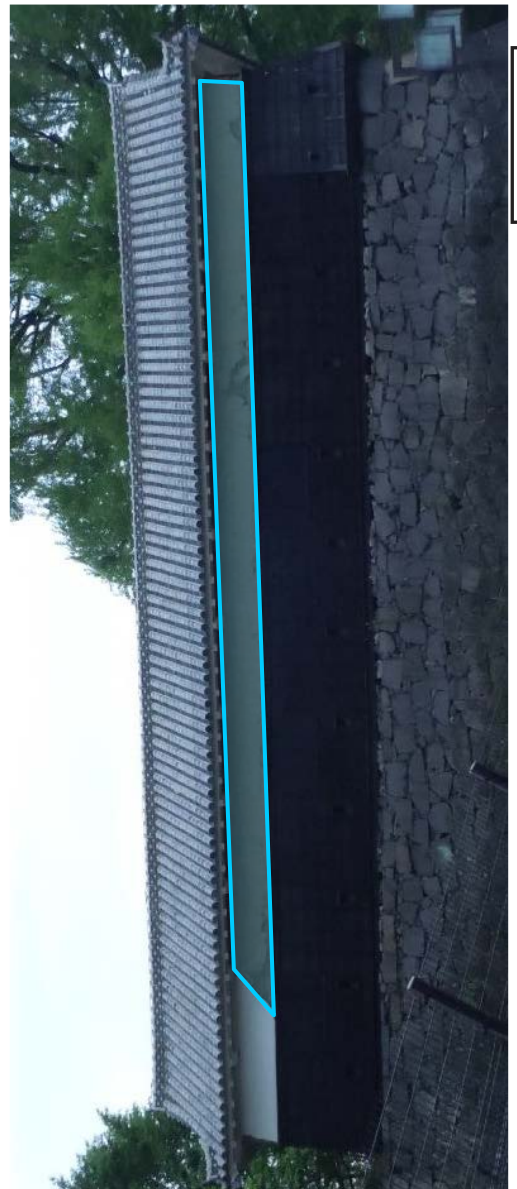
東面



西面



北面

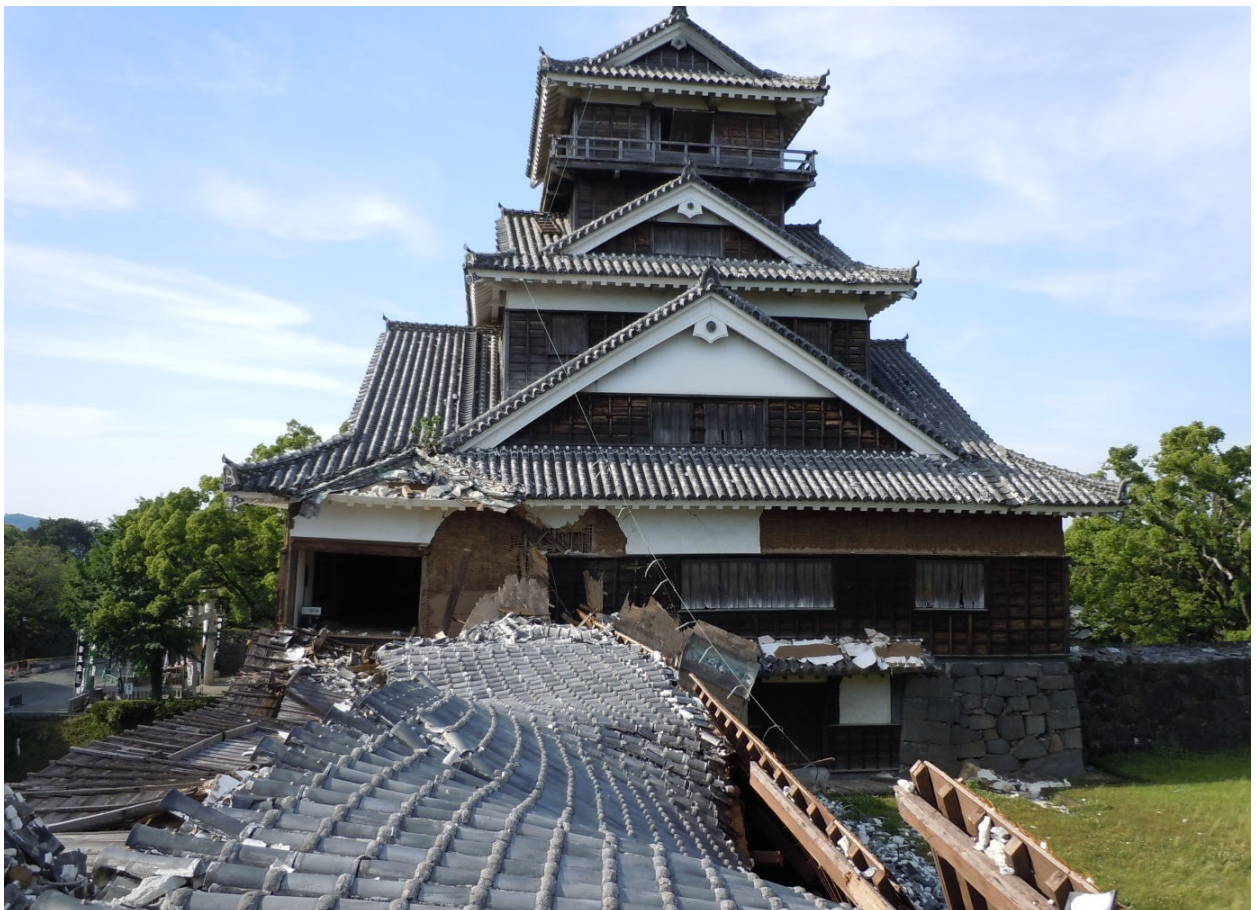


北面

①宇土櫓及び続櫓



南東から



南から

①宇土檣及び続檣



1階内部 その1



1階内部 その2

②平櫓



北から



南から

②平檜



内部 その1



内部 その2

③不開門



南から



東から

④五間櫓



南から



内部 その1

④五間櫓



内部 その2



内部 その3

⑤北十八間櫓



北から



東から

⑦源之進櫓



北から



内部

⑧四間櫓



北から



内部

⑨十四間櫓



北西から



内部

⑩七間櫓



南東から



北西から

⑩七間櫓



内部 その1



内部 その2

⑪田子櫓



北西から



内部

⑫長堀



西から



東から

⑬ 監物櫓



北から



内部

第2節 県指定重要文化財
旧細川刑部邸



主屋被災状況



茶室被災状況



長屋門内側被災状況



露地門被災状況



内部被災状況 その1

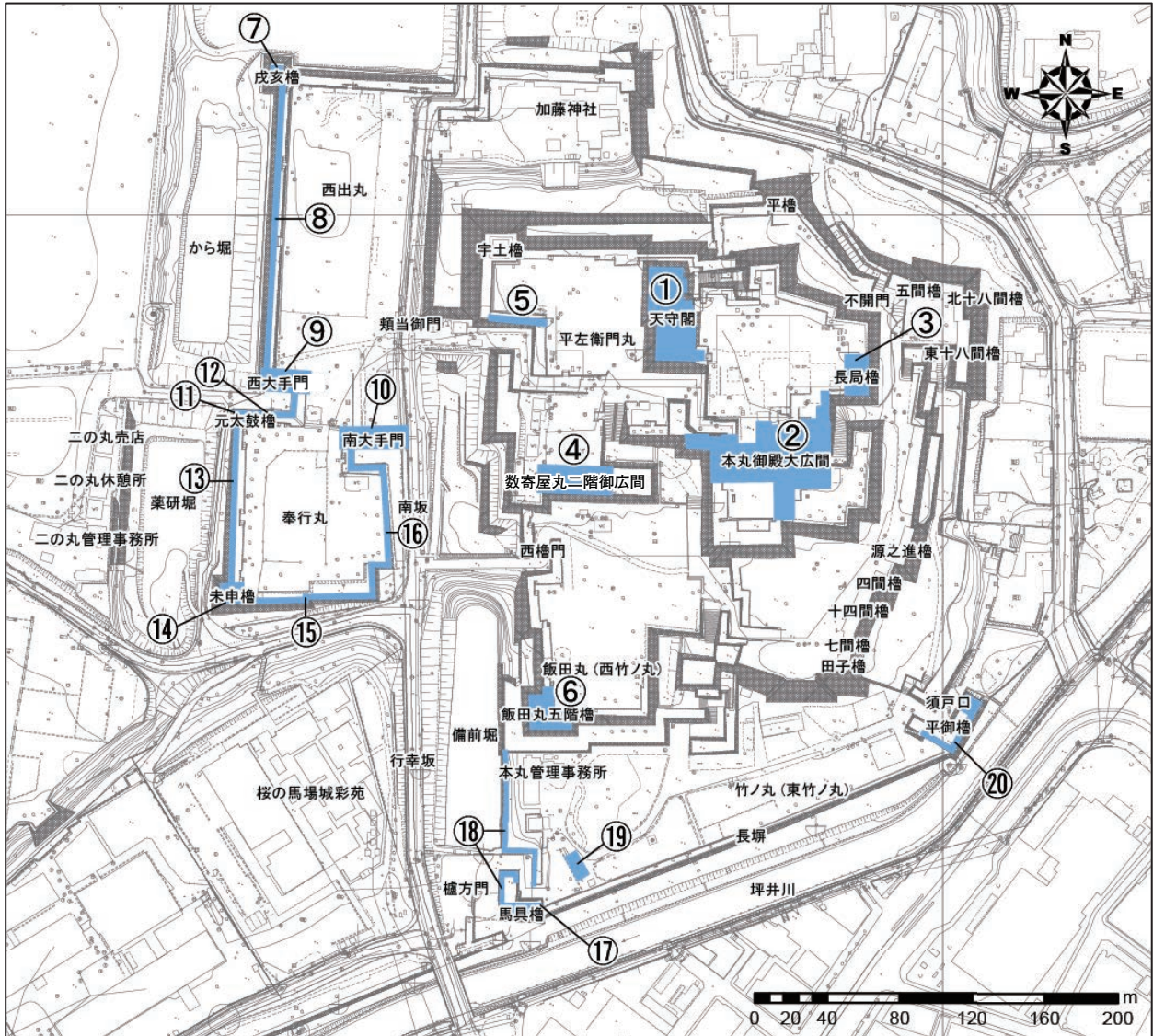


内部被災状況 その2

第3節 再建・復元建造物

表7 再建・復元建造物被災箇所一覧表

番号	被災箇所	被害状況	歴史、復元の時期
①	天守閣	屋根破損、下部石垣一部崩落	大小天守ともに明治10年（1877）2月19日に焼失。昭和35年（1960）に外観復元。
②	本丸御殿 大広間	外壁破損、地盤面沈下による上段ノ間不陸及び数寄屋棟変形	大広間は慶長15年（1610）頃に完成か。明治10年（1877）2月19日に焼失。（大広間棟・大台所棟・数寄屋棟）平成20年（2008）、復元。
③	長局櫓	外壁破損、建物下部地割れ	慶長年間に建築されたと考えられる。明治10年（1877）2月19日に焼失。平成20年、外観復元。
④	数寄屋丸 二階御広間	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	明治初期（西南戦争以前）に陸軍によって櫓は撤去された。平成元年（1989）、復元。
⑤	宇土櫓塀	倒壊	明治初期に撤去され、平成元年（1989）の宇土櫓の修理に伴って復元された塀。
⑥	飯田丸五階櫓	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	明治初期に陸軍によって撤去。西南戦争時は櫓跡に砲台が置かれ、その関係で内側の石垣が撤去されたと考えられる。平成17年（2005）、復元。
⑦	戌亥櫓	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	記録には、棟札に慶長7年（1602）に西出丸の大黒櫓（戌亥櫓）が完成とある。明治初期に櫓が解体され、平成15年（2003）、復元。
⑧	西出丸塀	倒壊	明治初期に石垣と共に塀が撤去された。平成16年（2004）復元。
⑨	西大手門	外壁ひび割れ、建造物たわみ・傾き、倒壊のおそれ	明治初期に石垣とともに櫓門も撤去。昭和56年（1981）、復元。平成11年（1999）、台風により櫓部分倒壊。平成15年（2003）、復元。
⑩	南大手門	外壁ひび割れ、建造物たわみ・変形、倒壊のおそれ	軍時代に撤去。平成14年（2002）、復元。
⑪	元太鼓櫓	外壁ひび割れ、建造物傾き・変形、倒壊のおそれ	軍時代に撤去。平成15年（2003）、復元。
⑫	奉行丸北側塀	倒壊	軍時代に撤去。平成15年（2003）、復元。
⑬	奉行丸西側塀	倒壊	軍時代に撤去。平成15年（2003）、復元。
⑭	未申櫓	外壁破損	明治初期に櫓が撤去。平成15年（2003）、復元。
⑮	奉行丸南側塀	控え石柱一部破損、傾き	明治22年（1889）地震の際は土台となった石垣が、上部の櫓とともに崩落。平成15年（2003）、復元。
⑯	奉行丸東側塀	一部倒壊	軍時代に撤去。平成16年（2004）、復元。
⑰	馬具櫓	外壁ひび割れ、南面石垣一部崩壊	西南戦争以前に陸軍によって解体。昭和41年（1966）、コンクリートブロックで再建。平成26年（2014）、木造復元。
⑱	馬具櫓続塀	一部倒壊	軍時代に撤去。平成26年（2014）、復元。
⑲	櫓方門	外壁破損	櫓方会所のあった曲輪（現加藤神社）にあった門だが、昭和29年（1954）に半崩壊状態になり、同30年（1955）に解体保存。同33年（1958）に竹の丸に復旧され、同35年（1960）に現位置に移転した。
⑳	平御櫓続塀	屋根瓦一部落下	軍時代に撤去。平御櫓とともに昭和36年（1961）、再建。



第5図 復元建造物群城内配置図



①天守閣（東から）



①大天守（北から）



①小天守（南から）



②本丸御殿御小姓部屋



②本丸御殿昭君之間



②本丸御殿数寄屋



③長局櫓



④数寄屋丸二階御広間



⑤宇土櫓堀



⑥飯田丸五階櫓



⑦戌亥櫓



⑧西出丸堀



⑨西大手門



⑩南大手門



⑪元太鼓櫓



⑫奉行丸北側堀



⑬奉行丸西側塀



⑭未申櫓



⑮奉行丸南側塀



⑯奉行丸東側塀



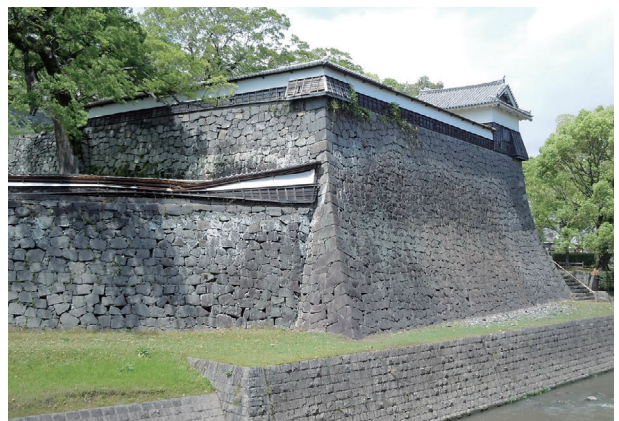
⑰馬具櫓



⑱馬具櫓続塀



⑲櫓方門



⑳平御櫓続塀